

# 分布調査報告書(23)

1996

山形県教育委員会

# 分布調査報告書(23)

平成7年度以降農林土木事業他関係遺跡  
東北横断自動車道酒田線・中央自動車道関係遺跡  
国営農地開発事業鳥海南麓地区関係遺跡

平成8年3月

山形県教育委員会

# 序

本書は、山形県教育委員会が平成7年度に実施した遺跡詳細分布調査の成果をまとめたものです。

本県では、平成7年度を初年度とし平成17年度を目標年度とする「人 はばたく ゆとり都 山形」をシンボルワードとする新総合発展計画が、また、それとの整合性が図られた「感性豊かな教育と文化の創造」と題する第4次山形県教育振興計画が策定されました。

文化財の保存と活用では文化財基礎調査や遺跡分布調査を計画的に実施し、基本台帳等の整備を図り、文化財情報システムの構築や文化財の周知の徹底・普及に努めることが大きな柱とされました。

遺跡詳細分布調査は「新総合発展計画」に基づく各種の開発計画と埋蔵文化財包蔵地の調整を第1目的としているものですが、その調査結果は将来施策である周知・普及を目的とした文化財情報システムの構築のための資料ともなります。県教育委員会では周知・普及のため今後も努力を続けてまいる所存です。

それまでの間、年度毎に刊行される本書が各種開発事業計画と埋蔵文化財包蔵地の調整の結果及び経過を記したものであると同時に、埋蔵文化財包蔵地のこれまでの所見を改訂して周知を図るという意味も併せもつものとして活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました関係各位に心から感謝申し上げます。

平成8年3月

山形県教育委員会

教育長 佐藤 進

## 例 言

- 1 本書は、平成7年度に山形県教育委員会が国庫補助を受けて実施した、平成7年度以降農林土木事業関係遺跡他に関する遺跡詳細分布調査の報告書である。
- 2 調査及び報告書の作成は、山形県教育庁文化財課の渋谷孝雄・長橋 至・名和達朗の3名が担当した。
- 3 第I章に遺跡一覧、第II章に個々の遺跡の調査結果を記した。新規発見遺跡・抹消遺跡・範囲・位置の変更については、本書の発行をもって周知されたものとする。
- 4 挿図の縮尺は不統一であり、各図毎にスケールを示した。遺跡位置図は国土地理院発行の2万5千分の1の地図を使用した。ただし、第II章2以下はこれをさらに縮小して使用した。第II章1の遺跡地名表の番号は当該事業内の遺跡位置図中の番号と一致する。  
挿図及び文中の記号はT(発掘溝)、TT(試掘溝)、TP・丸(試掘坑)で赤色部分は遺構、遺物検出、黒色部分は未検出を示す。遺跡位置図の赤色部分は遺跡範囲を示し、RP-土器、ST-竪穴住居跡、SB-建物跡、SE-井戸跡、SK-土坑、SD-溝跡、EB-掘り方、SP・EP-柱穴、SX-落込み、SG-旧河川跡を示す。  
図版の遺物は2分の1、3分の1を原則とし、縮尺を示していないものは2分の1であることを示す。
- 5 調査にあたっては、関係各機関・市町村教育委員会及び地元関係者のご協力を得た。記して感謝申し上げます。

# 目 次

I	調査の目的、方法と経過	
1	調査の目的、方法	1
2	調査の経過	1
II	調査の概要	
1	遺跡地名表	
(1)	県農林事業関係遺跡	4
(2)	県土木部、環境保健部、企業局、教育庁所管事業関係遺跡	10
(3)	建設省事業関係遺跡	20
(4)	地域整備振興公団事業関係遺跡	24
(5)	日本道路公団事業関係遺跡	24
2	試掘調査の概要	
(1)	百野遺跡	34
(2)	蛙橋遺跡	36
(3)	地ノ本遺跡	38
(4)	新溜窯跡・西山遺跡	40
(5)	西町田下遺跡	42
(6)	木戸下遺跡	44
(7)	上高田遺跡	46
(8)	植木場一遺跡	48
(9)	北柳1遺跡・北柳2遺跡	50
(10)	木ノ沢橋跡	52
3	記録保存調査、立会い調査	
(1)	小山崎遺跡	54
(2)	舟森遺跡	58
(3)	五百刈遺跡	60
(4)	柳久瀬A遺跡	63
(5)	名木沢橋跡	66
(6)	元木遺跡	68
(7)	秋葉山橋跡	70
(8)	石コロ遺跡	72
(9)	西原C遺跡	74
(10)	宮の前遺跡	77
(11)	向名高遺跡	80
(12)	下柳A遺跡	88
(13)	大峯2遺跡・大峯3遺跡	90
(14)	富山2遺跡	100
III	まとめ	
1	新規発見遺跡	102
2	範囲・位置の訂正を要する遺跡	102
	附表目次	
	表-1 平成7年度分布調査遺跡一覧	2
	表-2 調査工程表	3
	表-3 掲載遺跡位置図(2万5千分の1)索引	103

## 挿図目次

第1図	県農林事業関係遺跡位置図(1).....	6
第2図	県農林事業関係遺跡位置図(2).....	7
第3図	県土木部、環境保健部、企業局、教育庁所管事業関係遺跡位置図(1).....	14
第4図	県土木部、環境保健部、企業局、教育庁所管事業関係遺跡位置図(2).....	15
第5図	県土木部、環境保健部、企業局、教育庁所管事業関係遺跡位置図(3).....	16
第6図	建設省事業関係遺跡位置図.....	22
第7図	地域整備振興公団事業関係遺跡位置図.....	24
第8図	日本道路公団事業関係遺跡位置図(1).....	26
第9図	日本道路公団事業関係遺跡位置図(2).....	27
第10図	日本道路公団事業関係遺跡位置図(3).....	28
第11図	日本道路公団事業関係遺跡位置図(4).....	29
第12図	日本道路公団事業関係遺跡位置図(5).....	30
第13図	百野遺跡概要図.....	34
第14図	蛙橋遺跡概要図.....	36
第15図	地ノ本遺跡概要図.....	38
第16図	新溜察跡、西山遺跡概要図.....	40
第17図	西町田下遺跡概要図.....	42
第18図	木戸下遺跡概要図.....	44
第19図	上高田遺跡概要図.....	46
第20図	榎木場一遺跡概要図.....	48
第21図	北柳1遺跡、北柳2遺跡概要図.....	50
第22図	木ノ沢橋遺跡概要図.....	52
第23図	小山崎遺跡概要図.....	54
第24図	小山崎遺跡T9北2拡張区検出遺構平面・断面図.....	55
第25図	舟森遺跡概要図.....	58
第26図	五百刈遺跡概要図.....	60
第27図	五百刈遺跡検出遺構平面・断面図.....	61
第28図	柳久瀬A遺跡概要図.....	63
第29図	柳久瀬A遺跡検出遺構平面・断面図、出土遺物実測図.....	64
第30図	名木沢橋遺跡概要図.....	66
第31図	名木沢橋遺跡検出井戸跡平面図他.....	67
第32図	元木遺跡概要図.....	68
第33図	元木遺跡出土遺物実測図.....	69
第34図	秋葉山橋遺跡概要図.....	70
第35図	秋葉山橋遺跡検出遺構平面・断面図.....	71
第36図	石コロ遺跡概要図.....	72
第37図	石コロ遺跡検出遺構平面・断面図.....	73
第38図	西原C遺跡概要図.....	74
第39図	西原C遺跡検出遺構平面・断面図.....	75
第40図	宮の前遺跡概要図.....	77
第41図	宮の前遺跡土層断面図.....	78
第42図	向名高遺跡概要図.....	80
第43図	向名高遺跡遺構分布図、平面・断面図.....	81
第44図	向名高遺跡検出遺構平面・断面図.....	83
第45図	向名高遺跡出土遺物拓影、実測図.....	84

第46図	下柳A遺跡概要図	88
第47図	大峯2遺跡、大峯3遺跡概要図	90
第48図	大峯3遺跡遺構・遺物分布図、平面・断面図	91
第49図	大峯3遺跡遺構平面・断面図	93
第50図	大峯3遺跡出土遺物拓影、実測図	94
第51図	富山2遺跡概要図	100
第52図	富山2遺跡検出遺構平面・断面図	101

## 図版目次

図版1	県農林事業関係遺跡(1)	7
図版2	県農林事業関係遺跡(2)	8
図版3	県農林事業関係遺跡(3)	9
図版4	県農林事業関係遺跡(4)	10
図版5	県農林事業関係遺跡(5)	11
図版6	県土木部、環境保健部、企業局、教育庁所管事業関係遺跡(1)	16
図版7	県土木部、環境保健部、企業局、教育庁所管事業関係遺跡(2)	17
図版8	県土木部、環境保健部、企業局、教育庁所管事業関係遺跡(3)	18
図版9	県土木部、環境保健部、企業局、教育庁所管事業関係遺跡(4)	19
図版10	県土木部、環境保健部、企業局、教育庁所管事業関係遺跡(5)	20
図版11	県土木部、環境保健部、企業局、教育庁所管事業関係遺跡(6)	21
図版12	建設省事業関係遺跡	23
図版13	地域整備振興公団事業関係遺跡(1)	24
図版14	地域整備振興公団事業関係遺跡(2)	25
図版15	日本道路公団事業関係遺跡(1)	30
図版16	日本道路公団事業関係遺跡(2)	31
図版17	日本道路公団事業関係遺跡(3)	32
図版18	日本道路公団事業関係遺跡(4)	33
図版19	百野遺跡	35
図版20	蛙橋遺跡	37
図版21	地ノ本遺跡	39
図版22	新溜察跡、西山遺跡	41
図版23	西町田下遺跡	43
図版24	木戸下遺跡	45
図版25	上高田遺跡	47
図版26	植木場一遺跡	49
図版27	北柳1遺跡、北柳2遺跡	51
図版28	木ノ沢橋跡	53
図版29	小山崎遺跡(1)	56
図版30	小山崎遺跡(2)	57
図版31	舟森遺跡	59
図版32	五百刈遺跡	62
図版33	柳久瀬A遺跡(1)	65
図版34	柳久瀬A遺跡(2)	66
図版35	名木沢橋跡	67
図版36	元木遺跡	69
図版37	秋葉山橋跡	71

図版38	石コロ遺跡	73
図版39	西原C遺跡	76
図版40	宮の前遺跡(1)	78
図版41	宮の前遺跡(2)	79
図版42	向名高遺跡(1)	85
図版43	向名高遺跡(2)	86
図版44	向名高遺跡(3)	87
図版45	下柳A遺跡	89
図版46	大峯2遺跡、大峯3遺跡(1)	95
図版47	大峯3遺跡(2)	96
図版48	大峯3遺跡(3)	97
図版49	大峯3遺跡(4)	98
図版50	大峯3遺跡(5)	99
図版51	富山2遺跡	101

## I 調査の目的、方法と経過

### 1 調査の目的、方法

本調査は、平成8年度以降に予定されている開発計画等に先行して、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の詳細な分布調査を行い、遺跡の所在、範囲、性格を明らかにし、開発計画との調整をとって、遺跡の保護を図ることを目的とした。なお、一部、前年度までの調査結果に基づき、記録保存や現状保存を目的とする小規模な発掘調査と工事立会いの調査も実施した。

調査は、その目的によって、以下の方法で実施した。

#### (1) A調査（現地確認調査・表面踏査）

開発事業計画範囲内の表面踏査を行い、遺跡の範囲と事業実施計画区域の平面的な関係を確認し、遺跡の保護を図ることを目的とする。

#### (2) B調査（試掘調査）

坪掘りやトレンチ掘りを行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や、遺構確認面までの深さ等を把握して、開発事業計画との調整をとって遺跡の保護を図ることを目的とする。

#### (3) C調査（記録保存のための発掘調査）

A・B調査の結果、遺跡の保存状態が良好でない場合や、開発事業にかかる面積が狭い場合や接する場合に、必要に応じて実施する記録保存の調査。方法は発掘調査に準ずる。

#### (4) 立会い調査

開発事業による遺跡への影響が軽微な場合、工事施工に立ち会って実施する調査。この調査によって、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う。

### 2 調査の経過

山形県教育委員会では、毎年5～6月に開発関係各機関に、今後の事業計画についての照会を行い、その回答を受けて、7月上旬にヒアリングを実施し、事業計画と埋蔵文化財包蔵地との関係について検討を行っている。そして、この結果に基づいて、必要に応じて分布調査を実施し、事業との調整を図っている。そのほか、開発関係各機関から提出された埋蔵文化財分布調査依頼に基づく調査も随時行っている。今年度の調査は、平成7年4月から平成8年3月まで表-2の工程で、表-1に示した各遺跡の調査を実施した。なお、今年度新規登録した遺跡、抹消した遺跡、位置、範囲、遺跡名の訂正した遺跡はIII章のまとめに示した。





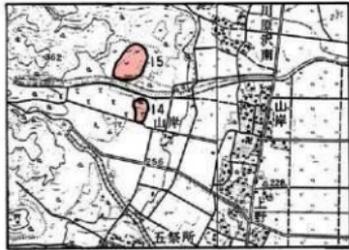
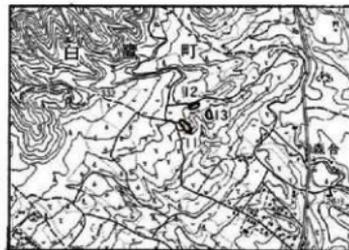
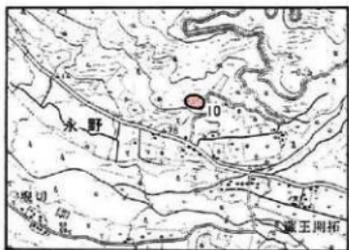
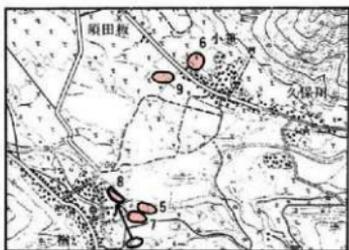
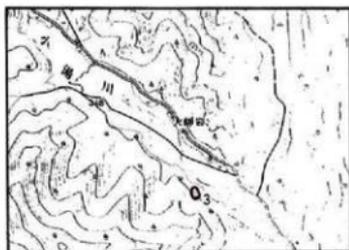
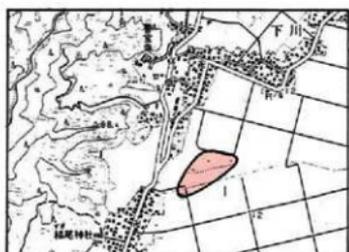
## II 調査の概要

### 1 遺跡地名表

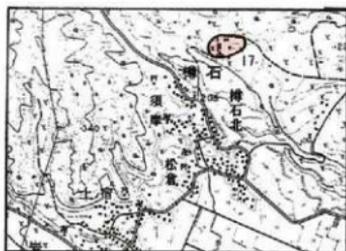
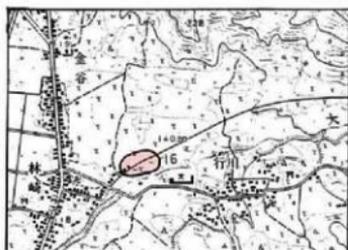
#### (1) 県農林事業関係

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	包蔵地	八幡田	鶴岡市大字馬町字八幡田	平安時代	平地 (12m)	水田
2	集落跡	鶴田野3	最上郡鮎川村大字川口字鶴田野	縄文時代	段丘 (73m)	水田
3	岩陰	尾子岩陰 (東地区)	東置賜郡高畠町大字二井宿字小湯	縄文時代	段丘 (332m)	山林
4	集落跡	悠然坊	天童市大字山口字悠然坊	平安時代	山麓斜面 (150m)	果樹園
5	集落跡	煙硝蔵	上山市檜下字平林	縄文時代 弥生時代	段丘 (281m)	畑地
6	散布地	原	上山市大字小笹字原	縄文時代	丘陵 (281m)	畑地
7	集落跡	台の上	上山市檜下字平林1160	縄文時代	段丘 (280m)	畑地
8	城館跡	檜下城	上山市檜下	中世	段丘 (276m)	畑地
9	集落跡	虚空蔵平	上山市大字小笹字虚空蔵平779	縄文時代	段丘 (281m)	畑地
10	集落跡	上ノ原	上山市三上字上ノ原	縄文時代	山麓 (500m)	畑地
11	集落跡	唐松台	西置賜郡白鷹町大字鮎貝字唐松二	縄文時代 中・晩期	丘陵 (303m)	畑地
12	散布地	長塚1	西置賜郡白鷹町大字鮎貝字長塚	縄文時代	丘陵 (300m)	畑地
13	散布地	長塚2	西置賜郡白鷹町大字鮎貝字長塚	縄文時代	丘陵 (300m)	畑地
14	散布地	大竹林	長井市泉字大林	縄文時代	段丘 (265m)	果樹園
15	散布地	小塚	長井市寺泉字小塚	旧石器時代・縄文時代	段丘 (283m)	桑畑
16	集落跡	矢島	村山市大字搦山字手塚森	縄文時代 早～前期	段丘 (132m)	宅地
17	包蔵地	黒木沢A	村山市大字樽石字黒木沢610他	縄文時代	段丘 (240m)	宅地
18	散布地	鷺沢	西村山郡朝日町大字大谷字鷺沢	縄文時代	段丘 (175m)	畑地
19	集落跡	大笹端	西置賜郡小国町大字玉川字大川端	縄文時代	段丘 (146m)	杉林

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
善賢寺の南東約600mに位置する。水田面より一段高い畑地に多量の遺物が散布する。北接する水田の試掘では遺構の存在は未確認。	須恵器、赤焼土器片。	平成4年度登録 平成7年11月隣接地を 県教委が試掘調査
村の南東部に位置する。南流する鮎川の左岸の段丘舌状部に立地する。東西45m・南北125mの範囲。今回の調査で焼土、土塊、ビット検出。	縄文土器、石匙、フレイク	平成6年度登録 平成7年5月県教委試 掘調査実施
小瀧川の沢筋の平場、尾子岩陰の東側前庭部にあたる。水田の面工事部分について立会調査を実施。岩陰部分は現状保存。	石器(鹿状石器1・剥片1)	No1256 平成7年8月県教委立 会調査実施
J R 天童駅の北東3.8kmの山麓に立地する。斜面部の試掘で堅穴の一部を検出した。穿跡工房の可能性もある。遺跡は農道の路線外である。	須恵器、赤焼土器	平成7年度登録
橋下地区東方200mの高台を呈する段丘面に立地する。滝沢新道線北側の畑地に遺物を散布する。東西100m・南北50mの範囲。	縄文土器	No214
県道寛平・矢米線北側～小笹1号線間に遺物を散布する。道路脇の電力鉄塔から東へ約150mに位置する。東西・南北50mの範囲。	縄文土器	平成7年度登録
橋下地区東方200mの高台を呈する段丘面を連る滝沢新道のすぐ北側に位置する。東西100m、南北50mの範囲。		No215
橋下地区北東約100m、須川左岸と金山川右岸を形成する段丘舌状部に立地する。東西300m・南北200mの範囲。県道跡地区の位置要訂正。		No218
小笹地区の南西側、電力鉄塔から南方約150m、段丘縁辺部を通る農道沿いの畑地に位置する。東西約100m・南北50mの範囲。		No212
蔵王開拓地区の北西部、主要地方道白石上山線から北側へ入り、山腹を上る農道西側の畑地に位置する。開拓線の北方600m。範囲は、不明。		No206
森合地区の北西500mに位置する。同地区から延びる農道の東端、南面する丘陵上の緩やかな尾根に立地する。東西30m、南北80mの範囲。		No1487 平成7年11月県教委立 会調査実施
森合地区の北西500mに位置する。丘陵を走る農道南側の細長く延びる丘陵面に立地する。東西25m・南北80mの範囲。	フレイク、チップ	平成7年度登録
森合地区の北西500mに位置する。南側に張り出す丘陵平坦部に立地する。東西30m、南北50mの範囲。	フレイク、チップ	平成7年度登録
水無川右岸の低い段丘に立地する。今回、遺跡の西側の隣接地の試掘を行ったが、遺構、遺物とも検出されなかった。		昭和57年度登録(長井市)、平成7年11月県教委試掘調査。
水無川左岸の段丘上に立地する。過去の土取りで大きく破壊されており、農道跡線内の試掘では、遺構、遺物とも検出されなかった。		昭和57年度登録(長井市)、平成7年11月県教委試掘調査。
J R 榑岡駅の北東3.2km、大旦川右岸を通る市道林崎線沿いに位置する。東西200m、南北100mの範囲。		No651 平成7年10月県教委立 会調査実施。
榑石集落の北方300mの段丘上に立地する。今回農道拡幅部分の試掘では、保存状況が良くないことが明らかとなった。	縄文土器片	No593 平成7年11月県教委試 掘調査実施。
大谷小学校の南方500mの段丘上に立地する。畑地部分に若干の遺物が散布する。東西50m、南北40mの範囲はやや拡大する可能性がある。	剥片	No527
玉川新田集落から南東約200m、玉川の左岸段丘上に立地する。範囲は約50m四方、現在杉林と墓地。今回のほ場整備については地区外。	縄文土器	No1435



第1図 黒農林事業関係遺跡位置圖



第2図 県農林事業関係遺跡位置図



八幡田遺跡近景 (北から)



八幡田遺跡出土遺物



鶴田野3遺跡近景 (北から)



鶴田野遺跡出土遺物

図版1 県農林事業関係遺跡(1)



尼子岩陰東地区近景 (北から)



尼子岩陰東地区出土遺物



悠然坊遺跡近景 (東から)



悠然坊遺跡出土遺物



煙硝廠遺跡近景 (北から)



煙硝廠遺跡出土遺物



原遺跡近景 (北西から)



原遺跡出土遺物

図版 2 農農林事業関係遺跡 (2)



台の上遺跡近景 (南東から)



橋下城跡遺景 (南から)



虚空蔵平遺跡近景 (西から)



上ノ原遺跡近景 (東から)



長峯1遺跡近景 (南西から)



長峯1遺跡出土遺物



長峯2遺跡近景 (北から)



長峯2遺跡出土遺物



廣松台遺跡近景（西から）



大林遺跡近景（南から）



小峯遺跡近景（西から）



矢島遺跡近景（南西から）



矢島遺跡調査状況（東から）



黒木沢A遺跡近景（東から）

図版4 県農林事業関係遺跡（4）

(2) 県土木部・環境保健部・企業局・教育庁所管事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	集落跡	杉下	東村山郡山辺町大字杉下	縄文時代	台地 (220m)	果樹
2	集落跡	花川	山形市大字松原字花川	弥生時代 古墳時代	平地 (122m)	水田地 畑地 学校敷地
3	集落跡	山元	天童市山元字寄懸	奈良時代	平地 (120m)	果樹 宅地



黒木沢 A 遺跡試験掘土層（東から）



黒木沢 A 遺跡出土遺物



鶯沢遺跡近景（北から）



鶯沢遺跡、出土遺物



大川端遺跡近景（西から）



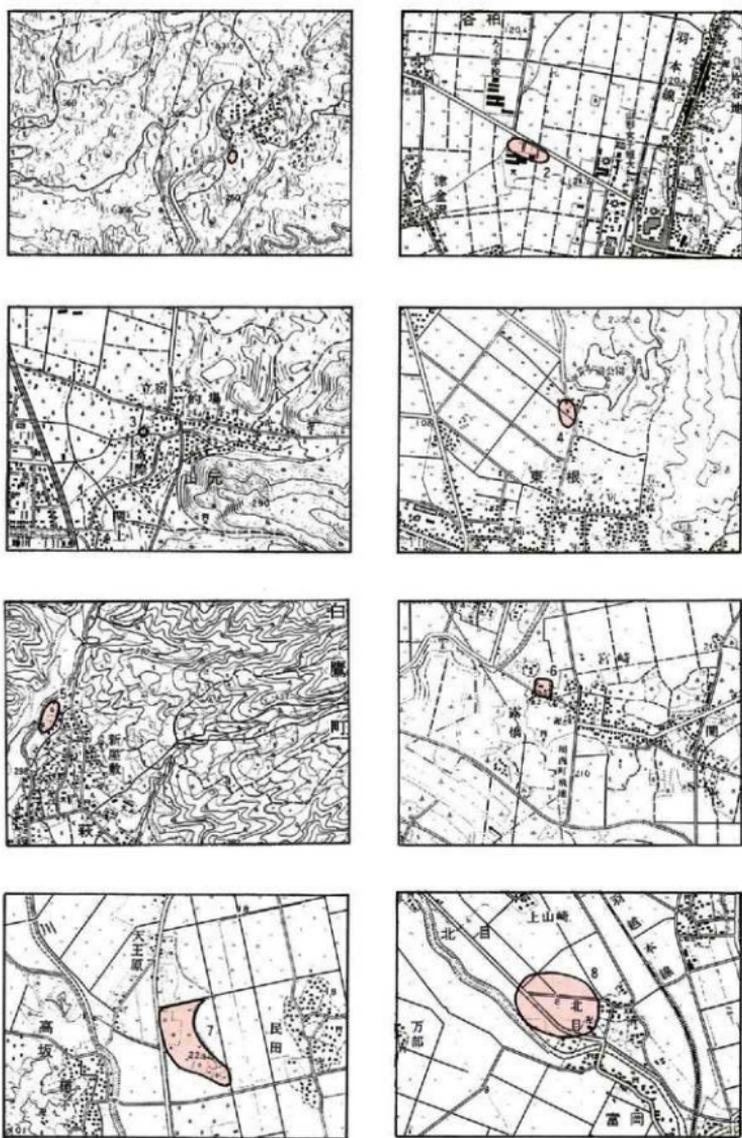
大川端遺跡出土遺物

図版 5 県農林事業関係遺跡（5）

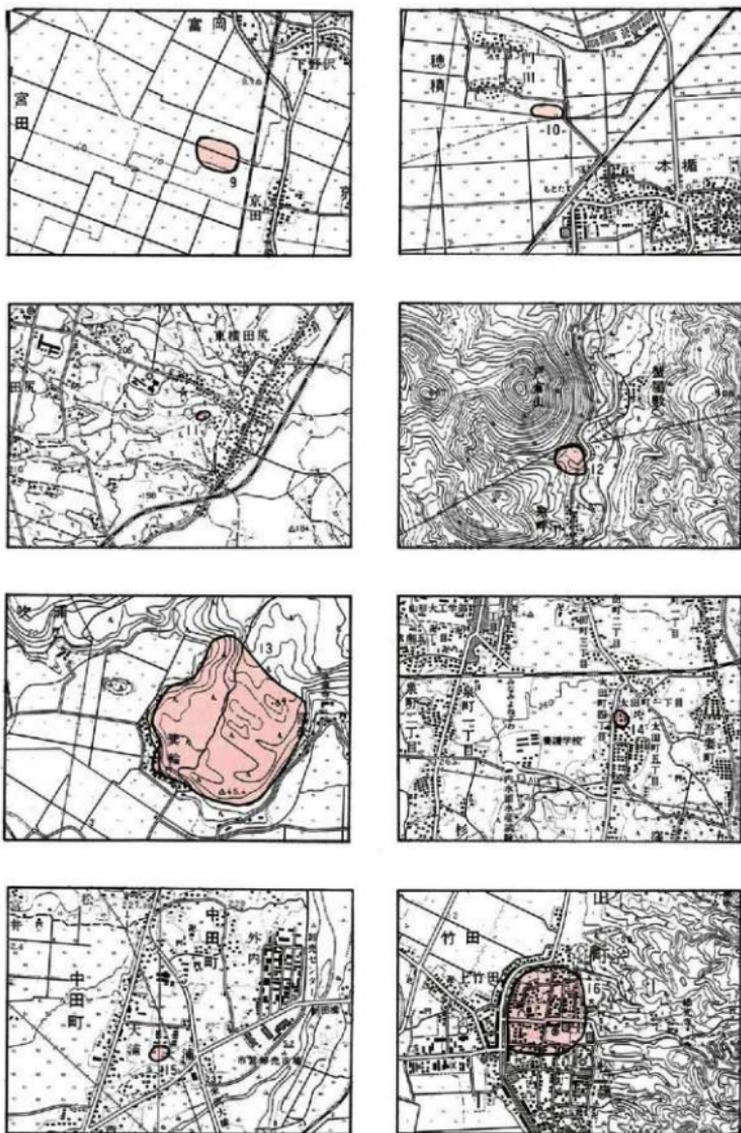
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
山間の台地、杉下集落の南側端に立地する。舌状に張り出す台地上で、現在は果樹。範囲は東西30m、南北50m程。道路改良の地区外。		No.357
J R 蔵王駅の北西800mに位置する。かつて暗渠工事で弥生土器が出土した。今回の東接地の試掘で流込みとみられる土師器が出土した。	土師器	No.74 平成7年12月県教委試掘調査実施。
寄藤集落北側、小河川左岸に立地する。範囲は10m×30mと狭いが、宅地化が進み、今回は位置の特定はできなかった。		No.32

No	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
4	包蔵地	53 堂 の 44 前	東根市堂の前	平安時代	平地 (117m)	水田 園路
5	包蔵地	43 新 6 屋 13 敷	西置賜郡白鷹町大字萩野字新屋敷	縄文時代 (後期)	段丘 (340m)	畑地
6	包蔵地	28 露 橋	南陽市大字露橋	近世 平安時代 奈良時代	平地 (210m)	宅地 地路
7	散布地	54 天 の 2 王 46 原	鶴岡市大字高坂字天王原	平安時代 鎌倉時代	自然堤防 (22m)	畑地
8	集落跡	42 樋 43 待	飽海郡遊佐町大字北目字樋待	平安時代	自然堤防 (6m)	水田
9	集落跡	45 古 6 屋 13 敷	飽海郡遊佐町大字吉出字古屋敷	平安時代 中世	平地 (9m)	水田
10	集落跡	40 岡 5 田	酒田市大字本橋字向田 138~140	平安時代	沖積地 (6.4m)	水田
11	集落跡	12 生 13 野 46 原	西置賜郡白鷹町大字横田尻字東生野原1,732	縄文時代	段丘 (195m)	畑山 地林
12	散布地	11 糸 22 畔 a	米沢市大字築沢字北原599他	縄文時代	段丘 (415m)	水田
13	城館跡	47 箕 4 輪 43 橋	飽海郡遊佐町大字直世字箕輪山田	中世	山腰 (50m)	山林 地
14	散布地	48 太 5 田	米沢市太田町熊野堂19	縄文時代	段丘 (270m)	境内 内野
15	集落跡 城館跡	49 大 23 浦 d	米沢市中田町字高橋式	奈良~平 安時代	段丘 (234m)	水田 畑地
16	城館跡	15 松 16 山 17 城	飽海郡松山町字新屋敷	江戸時代	山腰 (20m)	宅地
17	集落跡	41 山形西高敷地内	山形市鉄砲町二丁目15の64	縄文時代 中期~ 平安時代	扇状地 (134m)	学校敷地
18	集落跡	44 水 45 上	最上郡最上町向町字水上	縄文時代 前~晩期	段丘 (225m)	学校敷地 畑地
19	采里跡	42 山 43 辺 44 南 45 桑 46 里	東村山郡山辺町大塚	奈良時代 (8・9C)	沖積地 (100m)	水田
20	城館跡	47 黒 48 鳥 49 山 50 館 51 跡	東根市大字東根字黒鳥	中世	丘陵 (210m)	山林
21	墳墓	52 安 53 海 54 壇	長井市今泉	中世	丘陵 (222m)	果樹園 野
22	城館跡	5 田 6 制 7 館	川西町大字西大塚字堂前	中世	丘陵 (214m)	宅地 園

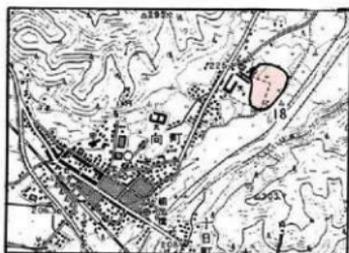
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
堂の前公園西側平地に立地。今回は、道路予定地部分について試掘。南側は礎層が広がり、遺跡北側が安定。遺構未検出、遺物希薄。	須恵器片	No602
荒砥駅の北東3.1kmの段丘上に立地する。東西100m、南北180mの西端部を試掘したが、土器片1点、剣片2点の出土にとどまった。	縄文土器、剣片、梅津五一氏が大型の打製石斧3点の一括資料を保管。	平成6年度登録 平成7年10月県教委試掘調査実施
露橋集落西側、旧露橋B館跡を、露橋遺跡と変更する。近世の館の可能性に留まるためと、今回の調査で平安時代の土器が出土したため。	赤焼土器	平成6年度露橋B館、平成7年度遺跡名訂正
高坂集落の東方500mの微高地に立地する。2度にわたる試掘でも、遺構、遺物はほとんどなく、遺跡の範囲は台地南部に限られる。	須恵器	昭和63年度登録 平成4、7年度県教委試掘、範囲要訂正
北目集落の西に広がる東西460m、南北280mの集落跡。今回の国道345号に係る試掘地点は氾濫原にあっており、遺構は未検出。	須恵器、赤焼土器	平成3年度登録 平成6年度緊急調査 平成7年度試掘調査
J R遊佐駅の北約1.3kmの水田中に位置する。今回の国道345号に係る試掘では、平成6年度調査地に北接して柱穴を検出することとなった。		No2136 平成6年度立会調査 平成7年度試掘調査
J R羽越本線本福駅の北方500m、門田地区に至る道路西側に位置する。平成7年度県埋蔵文化財センター緊急発掘調査実施。	赤焼土器	平成6年度登録 平成7年10月県教委試掘調査実施
山形鉄道フラワー長井線鮎貝駅の南西1.1km、主要地方道長井大江線の西方250m、中の目沢川右岸に位置する。東西80m、南北40mの範囲。	縄文土器、フレイク	No1471
綱木川左岸の段丘上に立地。昭和40年代の耕地整理で破壊されていることが今回の試掘調査で明らかとなった。		米沢市道路地図掲載 No h-201 平成7年度登録抹消
J R羽越本線吹浦駅の東方2kmの泥流台地の突出部に立地する。詳細は不明。		No2236
J R米坂線南米沢駅の南東600mの段丘上に立地する。南接する県営太田団地内で試掘調査を行ったが、遺構、遺物とも未検出である。		No1197
米沢市役所の北東約1.9kmに位置する。今回の試掘調査地は遺跡に北接する県営中田団地内であるが、遺構、遺物とも未検出である。		米沢市遺跡地図掲載 No410平成2、3年度市教委発掘調査
出羽丘陵西側山麓に立地する。宅地区域に広がりを呈する。天明7年酒井忠休の築城。東西、南北約400mの範囲。		No2278 平成7年12月県教委試掘調査実施
市街地南西の微高地に立地する。昭和51・同59年、平成元年度県教委による第1～4次の緊急発掘調査実施。東西200m・南北170mの範囲。	縄文土器	No29 平成7年10月県教委試掘調査実施
綱出川右岸の段丘上段及び中段に立地する。昭和51と55年に発掘調査を実施した。今回の体育館解体に伴う立会いは遺構・遺物とも未検出。		No913 平成7年7月県教委工事立会実施
山辺町の南側一帯の水田に位置する。昭和51・52年度に県教委による第1～4次の緊急発掘調査実施。東西1,440m・南北2,400mの範囲。		No394 平成7年10月県教委試掘調査実施
山頂部に空堀・土塁、山麓に曲輪が認められる。今回は、山腹駐車場隣接のトイレ施工部分について立会調査実施。遺構・遺物未検出。		No630
J R米坂線今泉駅の南東1.2kmの丘陵上に立地する。首塚・槍塚・車塚の3基の塚があったが現在は開墾で破壊された。		平成3年度登録 (長井市)
J R米坂線今泉駅の南東1.3kmの丘陵端に位置する。詳細は不明。		平成6年度登録(山形県中世城館址調査報告書第1条)



第3図 県土木部、環境保健部、企業局、教育庁所管事業関係遺跡位置図(1)



第4図 農土部、環境保健部、企業局、教育庁所管事業関係遺跡位置図(2)



第5図 県土木部、環境保健部、企業局、  
教育庁所管事業関係遺跡位置図(3)

花川遺跡近景(西から)



花川遺跡出土遺物



杉下遺跡近景(北から)

図版6 県土木部、環境保健部、企業局、教育庁所管事業関係遺跡(1)



山元遺跡近景（北から）



堂の前遺跡近景（南から）



堂の前遺跡出土遺物



新屋敷遺跡近景（南から）



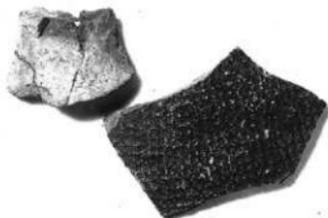
新屋敷遺跡出土遺物



露橋遺跡近景（西から）



露橋遺跡調査状況（東から）



露橋遺跡出土遺物

図版7 県土木部、環境保健部、企業局、教育庁所管事業関係遺跡（2）



天王原遺跡近景（東から）



天王原遺跡出土遺物



橋待遺跡調査状況（南から）



橋待遺跡出土遺物



古屋敷遺跡近景（南から）



古屋敷遺跡出土遺物



向田遺跡近景（南から）



向田遺跡出土遺物

図版 8 県土木部、環境保健部、企業局、教育庁所管事業関係遺跡（3）



生野原遺跡近景（東から）



生野原遺跡出土遺物



生野原遺跡近景（北東から）



生野原遺跡近景（西から）



生野原遺跡近景（北から）



生野原遺跡近景（西から）



松山城跡近景（東から）



松山城跡調査区土層断面

図版9 県土木部、環境保健部、企業局、教育庁所管事業関係遺跡（4）



山形西高敷地内遺跡近景（南東から）



山形西高敷地内遺跡出土遺物



水上遺跡試掘溝（北から）



山辺南条里遺跡近景（北から）

図版10 県土木部、環境保健部、企業局、教育庁所管事業関係遺跡（5）

### (3) 建設省事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	集落跡	南台	長井市館町北	奈良時代 平安時代	平地 (206m)	畑水 地田 宅地
2	散布地	南沢山神沢	新庄市大字鳥越字南沢山神沢	縄文時代	丘陵 (110m)	畑荒 地地
3	散布地	下河原	尾花沢市大字鳥越字南沢山神沢	縄文時代	丘陵 (85m)	畑 地地 宅地
4	集落跡	福田山 B	新庄市大字福田字福田山905、906、907他	旧石器時代・縄文時代	丘陵 (95m)	畑 地地
5	集落跡	中落合	南陽市中落合字寺西・前田	平安時代	平地 (223m)	水畑 寺境 田内
6	城館跡	鶴ノ木館	南陽市鶴田字鶴ノ木	中世	自然堤防 (214m)	宅果 地樹
7	包蔵地	東畑 A	南陽市俎柳字東畑	平安時代	平地 (213m)	宅畑 地地
8	集落跡	千野	西置賜郡小国町大字綱木箱口字千野	縄文時代	段丘 (207m)	原野



山辺南条里遺跡土層断面



黒鳥山麓遠景（北から）



安海壇遺跡近景（東から）



田制盤遺跡（南東から）

図版II 県土木部、環境保健部、企業局、教育庁所管事業関係遺跡（6）

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
長井南中学校北側の微高地に立地する。範囲は東西300m、南北700mに及ぶ。隣接するグラウンド造成時に土器が出土した。	土師器、須恵器	昭和63年度登録 (長井市)
J R 除羽東線南新庄駅の南西1kmの丘陵に位置する。農道沿いの畑地に縄文時代の石器が散布する。	石鏃、割片	平成元年度登録。
尾花沢市役所の北西約2.5kmの丹生川右岸の段丘上に立地する。今回の調査では遺物の散布を確認できなかった。		平成元年度登録。 分布調査報告書(17) 要位置訂正。
J R 新庄駅の南西約3kmに位置する。昭和55年度の県教委の発掘調査で縄文時代の土坑2基が検出された。	エンドスクレイパー	No.894
沖郷中学校北西約1km、上無川の自然堤防微高地に立地する。範囲は東西200m・南北250m程と考えられる。水路工事中発見された。	土師器、須恵器	昭和55年度登録(南陽市0-20)市教委水路部分発掘実施)
吉野川左岸の自然堤防上に立地する。宅地と果樹園地となっており、中世城館として県で登録。詳細は現在は不明である。		平成6年度登録
組柳地区南側の沖積地に立地する。住宅改築時に土器が発見された。地形から、遺跡は南側畑地部分まで広がるものと推定される。	須恵器	昭和61年度登録 (南陽市A-22)
横川左岸の段丘上に立地する。川寄りの一段低位の段丘面が遺跡範囲だが、地形から西側の段丘面への広がりも予想される。		No.1424



第6図 建設省事業関係遺跡位置図



南台遺跡近景（西から）



南沢山神天遺跡近景（北西から）



下河原遺跡近景（北から）



福田山B遺跡近景（北西から）



中落合遺跡近景（南から）



鴫ノ木館跡近景（東から）



東畑A遺跡近景（東から）

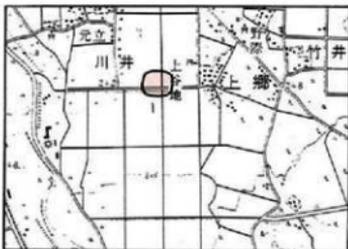


千野遺跡近景（北から）

図版12 建設省事業関係遺跡

## (4) 地域整備振興公団事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	集落跡	上谷地 C	米沢市大字上谷地	縄文時代	自然堤防 (244m)	高校敷地 田



上谷地 C 遺跡近景 (西から)

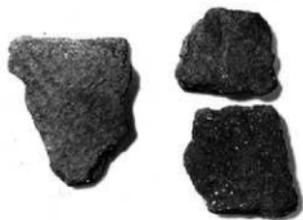
第 7 図 地域整備振興公団事業関係遺跡位置図

図版 13 地域整備振興公団事業関係遺跡 (1)

## (5) 日本道路公団事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	竈跡	オサヤズ	山形市大字松原	平安時代	丘 腰 (149m)	畑水 地 神 社
2	包蔵地	六 壇	山形市大字松原字六壇	鎌倉時代	平 地 (135m)	水畑 田 地
3	包蔵地	石 田	山形市大字谷柏字石田	奈良時代 ~ 平安時代	平 地 (127m)	水畑 田 地
4	包蔵地	谷 柏 J	山形市大字谷柏	縄文時代	自然堤防 (129m)	畑果 樹 地 水 園 田
5	集落跡	萩 原	山形市大字長谷堂字萩原	古墳時代 ~ 平安時代	自然堤防 (130m)	果畑 樹 地 水 園 地
6	集落跡	百 目 鬼	山形市大字百目鬼	平安時代	丘 腰 (127m)	水果 樹 田 水 園 地
7	散布地	樋 渡	山形市大字富神台字樋渡	縄文時代	平 地 (120m)	水畑果 樹 果 園 地
8	集落跡	藤 田	山形市大字志戸田字実田	弥生時代 古墳時代 奈良時代	平 地 (103m)	水畑 田 地
9	集落跡	服 部	山形市大字中野字服部	平安時代	自然堤防 (97m)	水畑 田 地
10	散布地	藤 治 屋 敷	山形市大字中野字藤治屋敷	平安時代	自然堤防 (97m)	水畑 田 地
11	散布地	馬 洗 場 A	山形市大字中野字馬洗場	平安時代	自然堤防 (96m)	水畑 田 地
12	散布地	馬 洗 場 B	山形市大字中野字馬洗場	平安時代	自然堤防 (96m)	水畑果 樹 園 地

遺跡概要	出土遺物	備考
羽黒川左岸、県立米沢工業高校敷地を中心に南側にやや広がる。米沢オフィシャルカティア予定地についてB調査実施。若干の遺物が出土。	縄文土器	平成6年度登録 平成6年県教委発掘調査、7年試掘調査



上谷地c遺跡出土遺物(1)

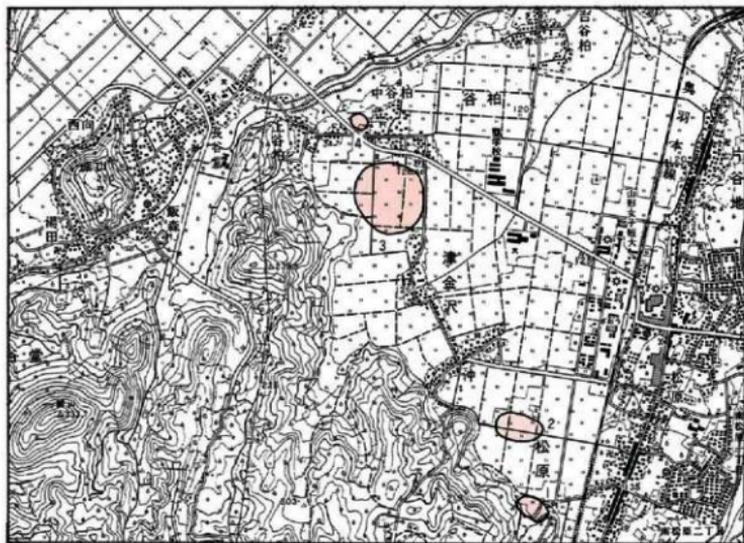


上谷地c遺跡出土遺物(2)

図版14 地域整備振興会公団事業関係遺跡(2)

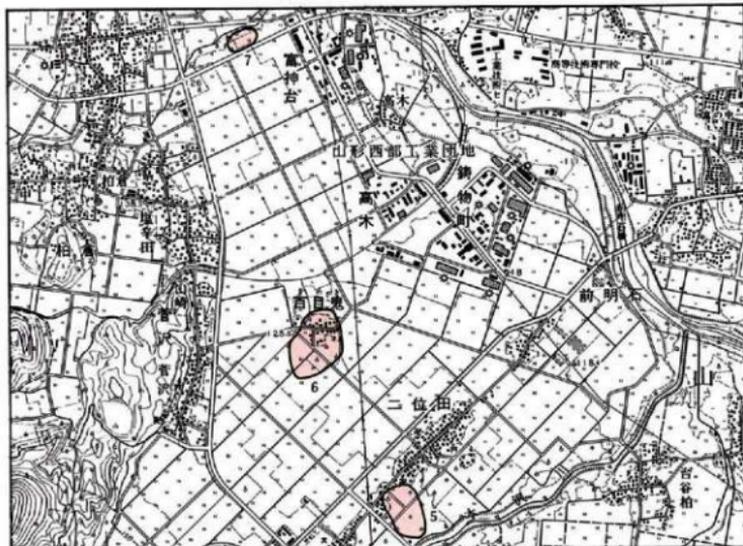
遺跡概要	出土遺物	備考
松原地区南西方向、JR奥羽本線西側の丘陵北側斜面に位置する。窯跡の基数は不明である。		No67
松原地区から沖地区に至る道路南側に広がる水田地帯に位置する。道路からは、約100mを測る。昭和40年代のほ場整備事業で土器多数出土。		No78
中谷柏地区と津金沢地区との間の水田地帯に位置する。昭和40年代のほ場整備事業で土器多数出土。		No82
中谷柏地区の北西側、本沢川右岸の自然堤防上に立地する。本沢川に架かるむつ橋から南東約200mの距離を測る。		No84
二位田地区と本沢川左岸との間に広がる葡萄畑地帯に位置する。		No101
百目鬼地区から集落南西側の水田地帯にかけて立地する。		No113
富神川右岸、主要地方道山形白鷹線と同上山・中山線交差点の北東部約300mに位置する。		平成2年度登録
茨田集落の南側に位置する。昭和42年の基盤整備の工事中に発見された。		No126
中野地区の東側400m、白川左岸に形成された自然堤防上を、南北方向に連なり立地する4遺跡群のひとつで、南側に位置する。		No156
上記遺跡の北側に隣接する。		平成2年度登録
県道中野・七瀬線の北側に位置する。県道を境いに上記遺跡の北側に隣接する。		平成2年度登録
上記遺跡の北側から北西方向に隣接する。		平成2年度登録

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
13	散布地	向河原	山形市大字洪江字向河原	平安時代	平地 (96m)	煙果樹園
14	包蔵地	洪江	山形市大字洪江字田中	奈良時代 平安時代	平地 (96m)	宅煙果樹園
15	散布地	影沢	天童市大字高擗字松葉・影沢北	古墳時代 奈良時代?	平地 (96m)	水煙田
16	散布地	中袋	天童市大字高擗字中袋2223・2225他	平安時代	平地 (94m)	水田
17	集落跡	八反記田	天童市大字成生字八反記田	縄文時代	沖積地 (90m)	水田
18	集落跡	清池清水	天童市大字成生字清池清水	古墳時代 (中期)	沖積地 (90m)	水田
19	散布地	的場	天童市大字成生字の場	平安時代	沖積地 (90m)	水煙田
20	包蔵地	藤岡山	寒河江市大字谷沢字藤岡山	旧石器時代 (?)	段丘 (190m)	果樹園
21	城館跡	石倉館跡	西村山郡西川町大字石倉	中世	丘陵 (275~285m)	山林
22	城館跡	横軸楯跡	西村山郡西川町大字横軸	中世近世	丘陵 (295m)	山荒地
23	散布地	家原	酒田市大字保岡字家原	平安時代	平地 (2m)	水田

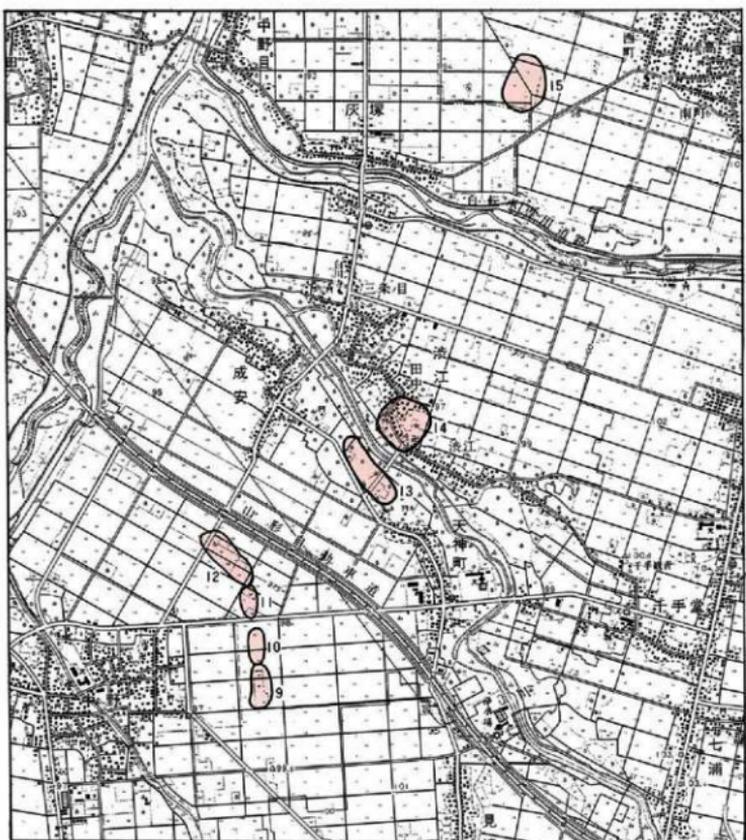
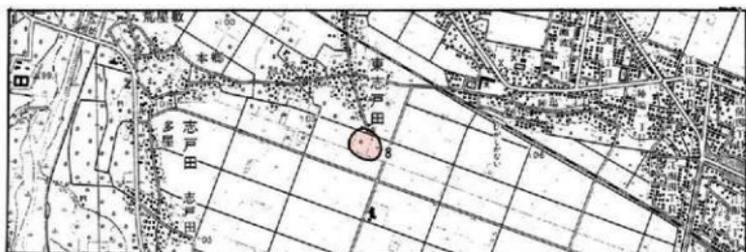


第8図 日本道路公団事業関係遺跡位置図(1)

遺跡概要	出土遺物	備考
新井田地区の北西側、白川左岸と主要地方道山形・羽入線との間に位置する。		平成2年度登録
白川右岸拾い、灰江～田中地区に広がりを見せるものと考えられる。	須恵器	No160 平成2年度県教委試掘調査実施
高瀬地区の南西約500m、灰塚地区へ至る道路の北側に位置する。	須恵器・赤焼土器	平成2年度登録
高瀬地区の西方約300m、寺津地区へ至る道路の北側へ位置する。遺跡の北方約100m及び南方200mの地点でも遺物散布地を確認。		平成2年度登録
蔵増地区坊小路橋の北東約600mに位置する。県遺跡地図記載位置より北側へ約200mずれている。	過去に配石・立石遺構の他、縄文時代後期後半の土器片・石器等が出土したといわれる。	No292
上記遺跡の北側へ隣接する。県遺跡地図記載位置より北側へ約200mずれている。遺跡の西方約200mの地点でも遺物散布を確認。	過去に古墳時代中期(引田式併行)の土師器が出土したといわれる。	No291
成田地区古峯神社の西方150mから350mの広範囲に広がる遺跡。今回、両方約100mで遺物散布を確認、さらに広がることも考えられる。		No295
上谷沢集落の南西700m、寒河江川右岸の段丘上に立地する。表土直下で10数点の刹片が出土したが時代は明確ではない。	刹片	平成元年度登録。 平成7年10月県教委立会い調査実施。
寒河江川左岸の丘陵に立地。東西130m・南西50mの範囲に点在する空堀状の落ち込みについてトレンチ調査を実施。地すべりの所産か。		平成4年度登録。 平成7年度県教委立会い調査実施。
今回は、遺跡北側の平坦部、横断道小路用道路部分についてトレンチ調査。その結果、調査地区については遺構・遺物未検出。		平成4年度登録。 平成6年度埋文センター発掘調査実施。
J R羽越本線本橋駅の南西2.5kmに位置する。東西170m、南北350mの範囲内で遺物の散布を確認したが、試掘で遺構、包含層は未検出。	須恵器、赤焼土器	平成7年度登録。 平成7年10月県教委試掘調査実施。



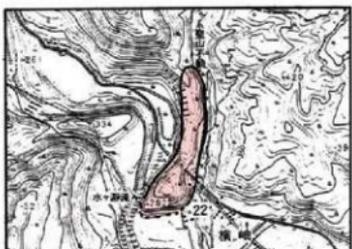
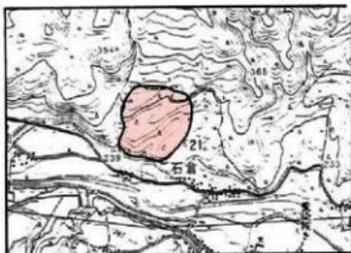
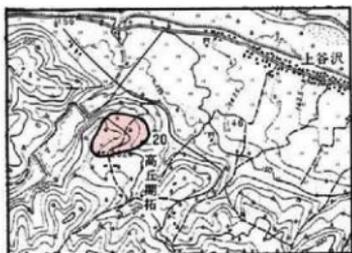
第9図 日本道路公団事業関係遺跡位置図(2)



第10圖 日本道路公園事業関係遺跡位置圖(3)



第11圖 日本道路公団事業関係遺跡位置図(4)



第12図 日本道路公団事業関係遺跡位置図 (5)



オサヤズ近景 (北から)



六塚遺跡近景 (西から)



石田遺跡近景 (南東から)



谷柏J遺跡近景 (南から)

図版15 日本道路公団事業関係遺跡 (1)



萩原遺跡近景（北西から）



百目鬼遺跡近景（南西から）



穂波遺跡近景（南西から）



塚田遺跡近景（南から）



服部遺跡近景（西から）



藤治屋敷遺跡近景（北東から）



馬洗場A遺跡近景（北西から）



馬洗場B遺跡近景（南西から）



向河原遺跡近景（南から）



淡江遺跡近景（北西から）



淡江遺跡出土遺物



影沢北遺跡近景（北から）



影沢北遺跡出土遺物



中袋遺跡近景（南西から）



八反記田近景（南東から）



清池清水近景（南から）



的場遺跡近景 (西から)



瀧窪山遺跡 (南東から)



瀧窪山遺跡出土遺物



石倉館跡遺景 (東から)



横地橋跡近景 (北から)



横地橋跡調査状況



實際遺跡遠景 (北西から)



家原遺跡出土遺物

図版18 日本道路公団事業関係遺跡(4)

## 2 試掘調査の概要

### (1)百野遺跡 (平成7年度登録)

所在地 山形県酒田市大字保岡字百野

調査員 A調査 名和達朗

B調査 名和達朗 渋谷孝雄

調査期日 A調査 平成7年4月13・14日

B調査 平成7年10月16～19日

起回事業 県営ほ場整備事業 (西荒瀬地区)

遺跡環境 遺跡は、JR羽越本線本橋駅の南西1.5km、高田地区西側の水田に位置する。史跡城輪柵跡からは、西方3.1kmの距離である。一帯は、西方に庄内砂丘、北東に鳥海山を望み、庄内平野を形成する沖積地で、標高は、4.5mを測る。

試掘状況 事業計画区域内について、20m方眼を基準に94箇所の試掘を行った。

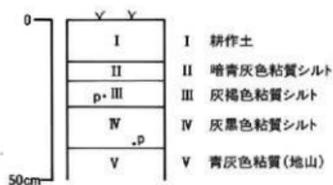
調査結果 試掘坑21箇所から遺構・遺物が検出され、深さは、水田面下19～61cmである。その分布域は、2ブロックの広がりであり確認範囲は、東西100m・南北260m、面積11,500㎡である。時期は、平安時代の集落跡と考えられる。



第13図 百野遺跡概要図



TP59検出遺構



土層柱状図



TP58土層断面



百野遺跡近景(西から)



出土遺物

(2) 蛙橋遺跡 (平成7年度登録)

所在地 山形県酒田市大字保岡字蛙橋

調査員 A調査 名和達朗

B調査 名和達朗 渋谷孝雄

調査期日 A調査 平成7年4月13・14日

B調査 平成7年10月19～20日

起因事業 県営ほ場整備事業 (西荒瀬地区)

遺跡環境 遺跡は、JR羽越本線本楯駅の南西1.7km、高田地区南西側の水田に位置する。史跡城輪棚跡からは、西方延長3.1kmの距離である。一帯は、西方に庄内砂丘、北東に鳥海山を望み、庄内平野を形成する沖積地である。標高は、4.5mを測る。主要地方道路酒田八幡線を間に北方150mには、百野遺跡が位置する。

試掘状況 事業計画区域内について、20m方眼を基準に74箇所の試掘を行った。

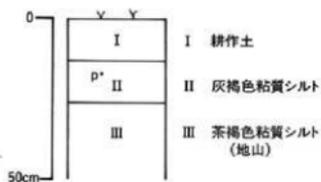
調査結果 試掘坑29箇所から遺構・遺物が検出され、遺構検出面の深さは、水田面下15～48cmである。その分布域は、幸福川右岸沿いに北西方向に広がりを呈する。確認範囲は、東西150m・南北200m、面積14,400㎡である。時期は、平安時代の集落跡と考えられる。



第14図 蛙橋遺跡概要図



蛙橋遺跡遺景（南から）



土層柱状図



TP9土層断面



TP62検出遺構



出土遺物

(3) 地ノ本遺跡 (平成7年度登録)

所在地 山形県鶴岡市大字面野山字地ノ本

調査員 渋谷孝雄 長橋 至

調査期日 A調査 平成7年10月23・24日 B調査 平成7年11月6～8日

起因事業 県営ほ場整備事業 (辻興屋地区)

遺跡環境 J R羽越本線鶴岡駅の北西約5.1kmに位置し、大山川と西の川の合流地点の北西の自然堤防上に立地する。標高7.6m測り、地目は大部分が水田、一部が荒地となっている。大山川から庄内砂丘までの間は近年まで遺跡の存在が未確認の空白域となっていたが、県営ほ場整備事業 (下川地区) の施工に伴う遺跡詳細分布調査で五百刈遺跡や西谷地遺跡などの古墳～平安時代の比較的大規模な遺跡が発見され発掘調査が行われている。

今回、下川地区の北側で県営ほ場整備事業 (辻興屋地区) が新規採択事業として計画されたため、農林水産部の依頼で現地踏査を行ったところ、平安時代の土器の散布が確認されたため試掘調査を行ったものである。

試掘状況 平安時代の土器を採取した地点を中心に、概ね20mおきに1×1mの試掘坑を合わせて125箇所を設定し、手掘りで地山まで掘り下げて、遺構・遺物の有無を確認した。調査結果 18箇所の試掘坑で遺構・遺物が発見された。検出された遺構は柱穴、土坑、溝があり、赤焼土器、土師器、須恵器等平安時代の10世紀を前後すると考えられる土器が出土した。遺跡の範囲は南を西の川、東を大山川の氾濫原に限られた東西180m、南北160mの広がりを持つと判断される。



第15図 地ノ本遺跡概要図



遺跡近景 (南西から)



土層柱状図



TP107土層断面 (西から)



TP92柱穴等検出状況 (東から)



出土遺物

図版21 地ノ本遺跡

(4) 新溜窯跡 (遺跡番号2305)・西山遺跡 (遺跡番号2304)

所在地 新溜窯跡 山形県飽海郡平田町大字山谷字西沢入 西山遺跡 同字西山

調査員 長橋 至

調査期日 平成7年12月14～15日

起因事業 水環境整備事業 (平田地区)

遺跡環境 平田町山谷集落の北方500m、標高約34mの丘陵に立地する。新溜窯跡は、人工の農業用水溜め池 (新溜) 中の斜面に位置し、満水時は水没している。西山遺跡は新溜の南東側の緩斜面から平地に位置し、現在は果樹・畑地・荒地・水田となっている。

試掘状況 新溜窯跡については、窯跡が存在するとされる地点1箇所及び土色の状況から窯跡の存在の推定された地点1箇所に、トレンチを計4本設定し窯跡のプラン検出を行なった。西山遺跡については、新溜南東部に予定されている遊歩道に隣接する調査可能箇所に12の試掘区 (1×1m) を設定し状況を探った。

調査結果 新溜窯跡～TT1・2でSQ1窯跡 (時期は平安時代、窯体長推定3.5m・幅70cm、焚き口部に2個の礫が検出された。遺物は上部から須恵器壺体部片1が出土)、TT4でSQ2・3窯跡 (いずれも、窯体下半から焚き口部のみ遺存、プランは、幅1.5m、検出長約2mほど検出。窯の上部については不明。遺物は灰原から中世陶器が多量に出土した。時期は珠洲系陶器の編年のII～III期、13世紀前半から中頃と推定される)。なお、3基とも検出面から窯体底部まで浅く遺存状態は不良である。西山遺跡～縄文時代中期の土器片が出土。遺跡は良好に遺存していると推測される。今回の遊歩道部分は現状保存。



第16図 新溜窯跡、西山遺跡概要図



新湊窯跡近景 (TT1~3) (西から)



新湊窯跡SQ1 (南から)



新湊窯跡TT4 (東から) (右SQ2、左SQ3)



新湊窯跡SQ2、SQ3検出状況 (北東から)



西山遺跡近景 (東から)



西山遺跡TP1遺構検出状況



新湊窯跡SQ2出土遺物



西山遺跡TP1出土遺物

CLASCLLS  
(5)西町田下遺跡(平成7年度登録)

所在地 山形県米沢市塩井町字西町田下

調査員 渋谷孝雄

調査期日 平成7年11月17日

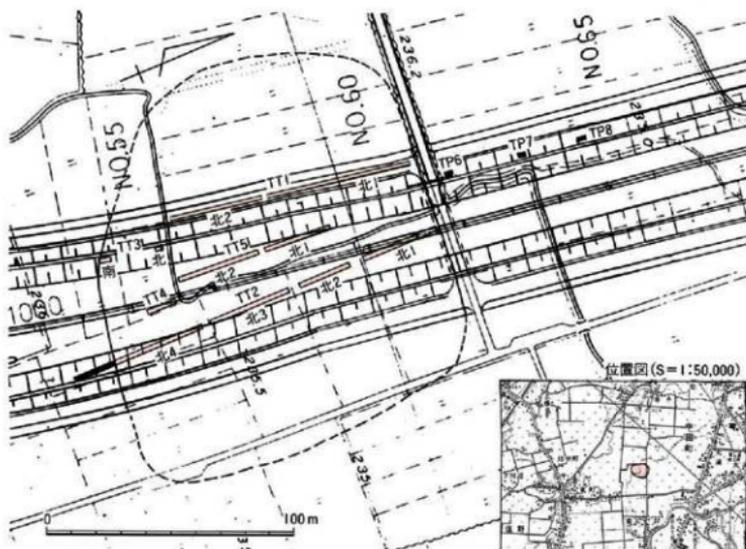
起回事業 国道121号線道路改良館山II期

遺跡環境 米沢市役所の北方約1.9kmに位置し鬼面川と最上川の中間の平地に立地する。標高236m前後を測り、地目は水田、転作田となっている。本遺跡の南方600mに奈良時代の集落、中世の屋敷跡が検出された荒川2遺跡がある。平成4年度の踏査で土師器片を採取しており、県教委では遺跡可能性地として把握していた。

試掘状況 道路用地内にバックホーのバケット幅のトレンチを合わせて14箇所設定して表土除去と部分的な面削りを行い遺構プラン検出と遺物の採取をおこなった。

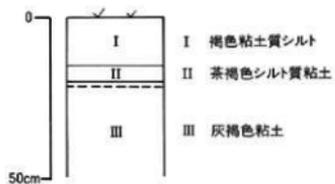
調査結果 TT1～5の各トレンチで平安時代の須恵器、土師器等の遺物が出土した。また、遺跡の東半部のTT2、4、5の各トレンチで上記遺物を含む柱穴、溝跡、土坑とみられる土色変化を確認した。一段低い市道の北に設定したTP6～8の試掘坑は表土直下が砂礫層となり遺構、遺物とも確認されなかった。

過去のほ場整備で削平を受けており、表土直下が遺構確認面となっている。路線内の遺跡面積は約9,800㎡である。





遺跡近景（北東から）



TT2土層柱状図



TT2北2区溝等検出状況（北から）



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

(6) 木戸下遺跡 (遺跡番号2,083)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字富岡字木戸下

調査員 渋谷孝雄

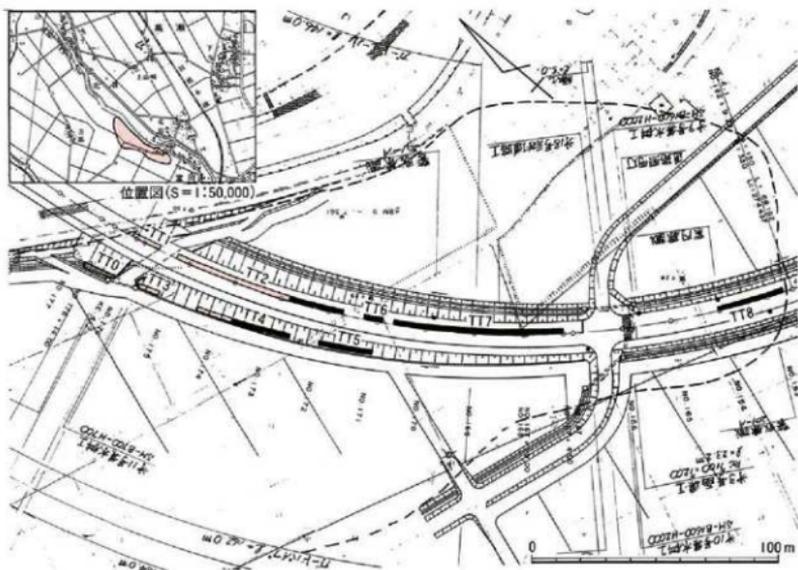
調査期日 平成7年5月17・18日

起回事業 国道345号線道路改良

遺跡環境 J R羽越本線遊佐駅の北北西約2.5kmに位置し高瀬川の形成した自然堤防上に立地する。標高5～6m前後を掘り、地目は水田、畑地となっている。高瀬川を挟む対岸に樺待遺跡、北目長田遺跡が、また、東に隣接して上高田遺跡があり、本遺跡を含め平成6～7年度にかけて県営ほ場整備事業に伴って緊急発掘調査が行われた。

試掘状況 道路用地内にバックホーのバケット幅のトレンチを合わせて8箇所設定して表土除去と部分的な面削りを行い遺構プラン検出と遺物の採取を行った。

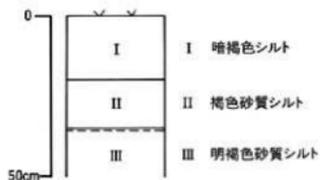
調査結果 TT1、3それにTT2、4の各トレンチの西半で平安時代の須恵器、赤焼土器等の遺物が出土し、竪穴住居跡、柱穴、溝跡、土坑とみられる土色変化を確認した。平成7年度の調査で遺構、遺物が検出された遺跡東半部に設定したTT8、9は路線内で攪乱が認められ、今回の調査では遺構、遺物とも検出できなかった。



第18図 木戸下遺跡概要図



遺跡近景 (南から)



TT1土層柱状図



TT1遺構検出状況 (北から)



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

(7) 上高田遺跡 (遺跡番号2,080)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字富岡字家ノ前

調査員 渋谷孝雄

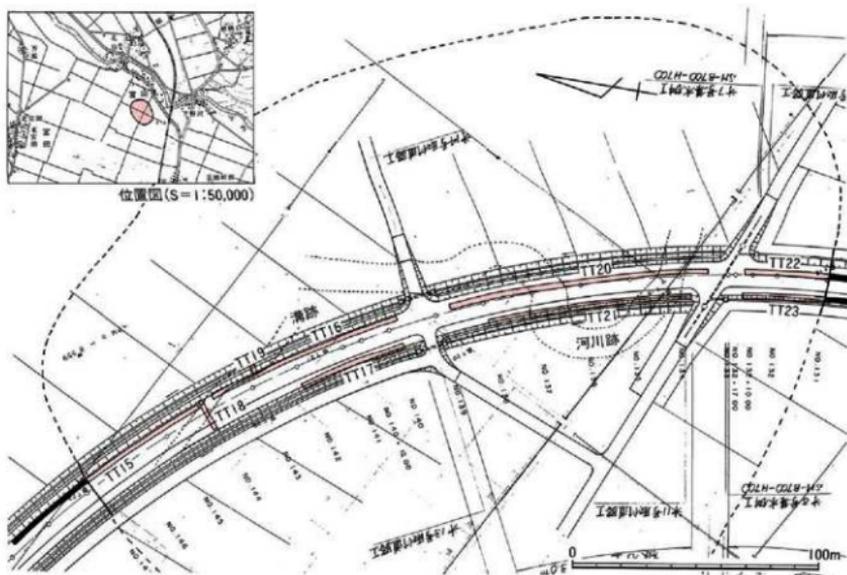
調査期日 平成7年5月18・19日

起因事業 国道345号線道路改良

遺跡環境 J R羽越本線遊佐駅の北北西約2kmに位置し高瀬川の形成した自然堤防上に立地する。標高8前後を測り、地目は水田となっている。木戸下遺跡の東に所在し、羽越本線を挟んで東側に石田遺跡がある。平成6年度に県営ほ場整備事業に伴って財団法人山形県埋蔵文化財センターによって緊急発掘調査が行われ、平安時代の遺物を多数含む河川跡等が検出されている。

試掘状況 道路用地内にバックホーのバケット幅のトレンチを木戸下遺跡から連続して設定し、木戸下遺跡の9箇所も含めて合計23箇所の調査を行った。表土除去と部分的な面削りに加え、河川跡の一部掘り下げも行った。

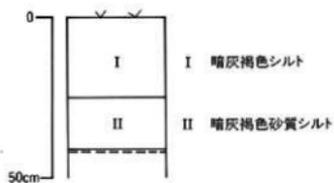
調査結果 TT15の東半からTT23の北半まで遺物が出土した。TT22、23では柱穴、土坑、溝跡等を検出したが、TT15～21までは河川跡、溝跡を除くと目立った構構はない。路線内で上幅10～15mの河川跡を2箇所検出し、幅6m前後の溝跡1条も検出された。河川跡には多数の遺物が含まれている。路線内の面積は5,490㎡となる。



第19図 上高田遺跡概要図



遺跡近景（西から）



TT2土層柱状図



旧河川跡土層断面（南から）



出土遺物（1）



出土遺物（2）

(8) 植木場一遺跡 (平成2年度登録)

所在地 山形県南陽市大字宮崎字植木場一、町屋敷一、二、地藏堂他

調査員 渋谷孝雄

調査期日 平成7年11月15・16日

起因事業 一般道南陽川西線道路改良

遺跡環境 JR奥羽本線赤湯駅の南西約3kmに位置し、最上川とその支流の上無川の中間の微高地に立地する。奈良・平安時代の遺跡として平成2年度に登録されたが本事業に係る平成5年度の坪掘りの試掘調査の際、中世の館跡、近世の上杉家の鷹狩り場の御殿跡でもあることが明かとなり、それに伴う土塁や堀の痕跡も確認されている。さらに縄文時代前期の集落跡である可能性も生じた。地目は畑地、果樹園、宅地等となっており標高は211mを測る。

試掘状況 道路用地内にバックホーのバケット幅のトレンチを4本設定して表土除去を行い面整理で遺構の有無を確認し、遺物を採取した。なお、遺跡の西半部の路線内は平成8年度に試掘調査を行う予定である。

調査結果 TT1では平安時代の須恵器等が出土し、竪穴住居跡や柱穴、溝跡、土坑等の遺構が確認された。TT2、3では柱穴と溝跡が検出された。TT4では中央部で中・近世の所産とみられる堀跡が多数検出された。また、TT4東半部にも平安時代の遺構があり、東端部で地山が急激に落ち込んでいる様子が観察された。



第20図 植木場一遺跡概要図



遺跡近景（東から）



TT1遺構検出状況（西から）



TT3土層断面（南から）



TT4遺構検出状況（西から）



TT1土層柱状図



出土遺物（1）



出土遺物（2）



出土遺物（3）

(9) 北柳1遺跡、北柳2遺跡 (平成7年度登録)

所在地 山形県山形市大字青柳字北柳

調査員 渋谷孝雄

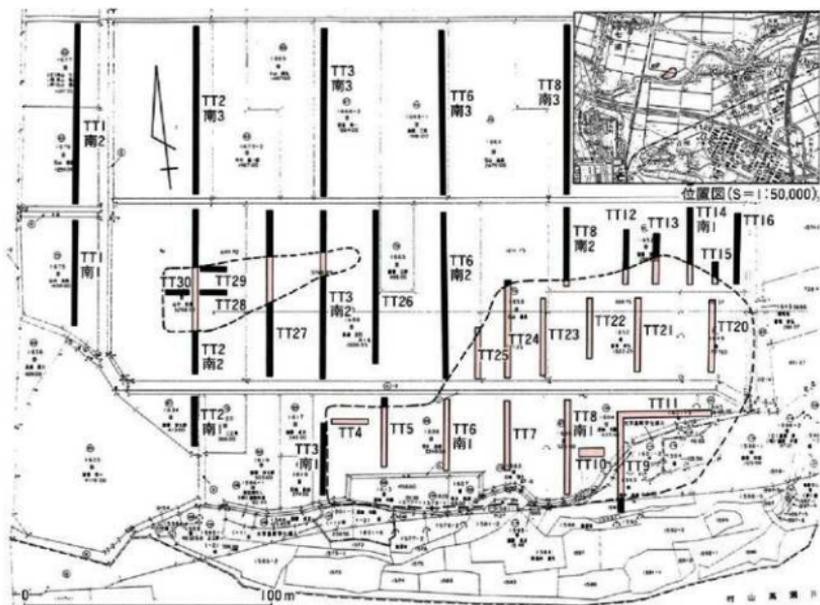
調査期日 平成7年5月9～12日 平成7年12月19、20日

起因事業 県立中央病院移転整備事業、健康の森整備事業

遺跡環境 北柳1、2遺跡はJR奥羽本線南出羽駅の南東約500mに位置し、村山高瀬川右岸の自然堤防上に立地する。標高は106mを測り地目は水田、畑地となっている。高瀬川の対岸には県立保健医療短期大学の整備事業に伴って平成7年度に緊急発掘調査が行われた下柳A遺跡が所在する。古墳時代中期の竪穴住居跡が多数検出されており、弥生時代後期の土器も出土している。

試掘状況 5月の調査は用地内にバックホーのバケット幅で長さ300～400mのトレンチを50mの間隔で設定して表土除去を行い、遺構、遺物の有無を確認し、その後、遺物が発見された地点に長さ10～40mのトレンチを追加した。また、12月はTT20～30を調査し、遺跡の範囲を確定した。

調査結果 北柳1遺跡では縄文時代晩期、弥生時代前期、中期、古墳時代の遺物が出土し、北柳2遺跡では弥生時代中期の遺物が出土した。北柳1遺跡では古墳時代の遺構が検出されたが北柳1、2遺跡とも弥生以前の遺構は未検出である。



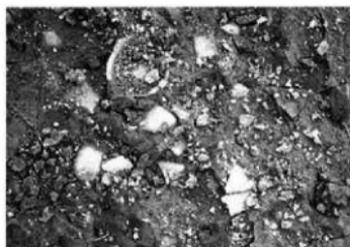
第21図 北柳1遺跡、北柳2遺跡概要図



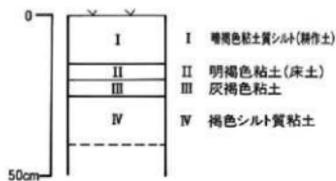
北柳 1 遺跡近景 (南から)



北柳 1 遺跡TT24土層断面 (東から)



北柳 1 遺跡TT14遺物出土状況 (南から)



北柳 1 遺跡TT24土層柱状図



北柳 1 遺跡出土遺物 1



北柳 1 遺跡出土遺物 2



北柳 2 遺跡近景 (南から)



北柳 2 遺跡遺物出土状況 (北から)

(10)木ノ沢橋跡 (平成7年度登録)

所在地 山形県寒河江市大字柴橋字木ノ沢

調査員 渋谷孝雄

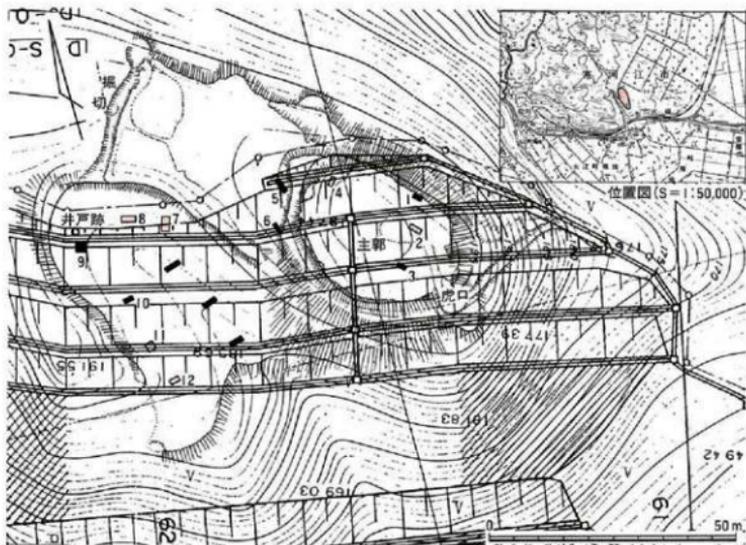
調査期日 平成7年11月20日

起回事業 東北横断自動車道酒田線建設工事 (寒河江工事区)

遺跡環境 J R左沢線柴橋駅の北東600mに位置する。標高190~205mの舌上に張り出した尾根筋に立地する。橋はおおよそ4つの郭からなり、主郭は20×30m程の広さを持ち、腰郭を付帯してその西側にさらに西の最高部の郭と堀切で区画された方形の郭、その南側にも井戸跡を伴う一段低い方形の郭が認められる。木ノ沢の集落から主郭への尾根道には横矢がかりが設置されている。

試掘状況 道路用地内に1×2m、2×2m、1×3m等の試掘坑を15箇所設定し、地山まで掘り下げて遺構の有無を確認し、遺物を採取した。

調査結果 TP2、4、8、11、12で柱穴等の遺構が検出され、TP7では須恵器、赤焼土器が出土し平安時代の堅穴住居跡とみられる土色変化を確認した。調査の結果、主郭と井戸のある郭の大部分、主郭西の方形の郭の一部が路線に入ることが明かとなり、その面積は約3,200㎡となる。また、平安時代の遺構も存在する複合遺跡であることも明らかとなった。



第22図 木ノ沢橋跡概要図



遺跡遠景（東から）



TT7土層柱状図



TT7土層断面、遺構検出状況（南東から）



TT12遺構検出状況（東から）



出土遺物

### 3 記録保存調査、立会い調査の概要

#### (1) 小山崎遺跡 (遺跡番号2,214)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字吹浦字七曲、七曲堰の東地

調査員 渋谷孝雄 長橋 至 名和達朗

調査期日 発掘調査 平成7年7月25日～9月13日 (23日間)

起因事業 県営ほ場整備事業 (洗沢川地区)

遺跡環境 JR羽越本線吹浦駅の東方1kmの、烏海山南西部の泥流台地と庄内平野が接する位置に立地する。遺跡の南を夏、冬を通じて水温11度を保つ清流牛渡川が流れ、毎年大量の鮭が遡上する。標高は台地で5m、水田部で1.7mを測る。

調査状況 ほ場整備事業で破壊されることになる用排水路にT1からT6までのトレンチを設定した。このトレンチ調査で、T3の西半、T4、5、6からは流れ込みによる再堆積の遺物が出土するに留まったが、T1、2、3の東半から縄文時代早期から後期のおびただしい土器、石器と動植物遺体が出土したため、水路位置の変更等遺跡の保存に向けた事業計画変更のための資料収集を目的としてT7～11までの5本のトレンチを追加した。

調査結果 T1、T3、T8～11の各トレンチに数カ所の深掘区を設定して地表から1～2.8mまでの掘り下げを行った。この結果、T10以降には縄文時代早期末から縄文時代後期中葉までの包含層が累々と堆積していることが判明し、前期末以前にはクルミ等の植物遺体が伴うことが明かとなった。また、T1北端部とT3西深掘1区では縄文時代後期初



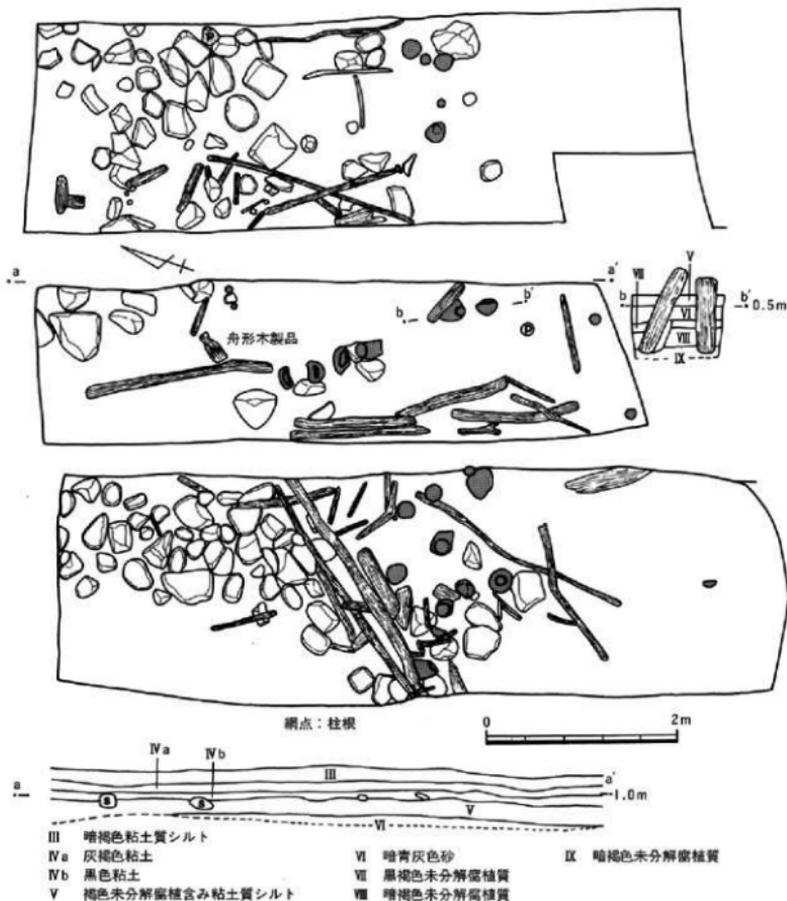
第23図 小山崎遺跡概要図

頭から中葉の層にシカ、イノシシ等の動物遺体と骨角器やトチ等の植物遺体、漆器が伴出し、極めて豊富な情報が残されている遺跡であることが明かとなった。

さらに、T9北2拡張区では縄文時代後期前半～中葉の土器を伴い27本の柱根と丸木材、加工木、配石が検出された(第24図)。この調査区では舟形木製品、漆器片、クルミ、トチも出土した。

T T 7 以東の一次的な包含層の残る地域は、関係者のご理解とご協力により、ほ場整備事業から除外され、遊佐町によって買収、保存されることになった。

なお、報告書は平成8年度に刊行する予定である。



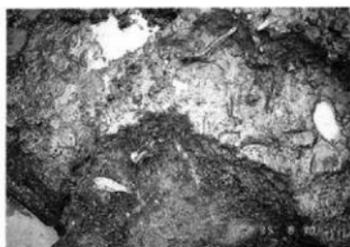
第24図 小山崎遺跡T9北2拡張区検出遺構平面・断面図



遺跡近景 (西から)



T3東深掘区土層断面 (東から)



T1北端深掘Va層獣骨出土状況 (西から)



T3西深掘I区土層断面 (西から)



T9北2拡張区全景 (南西から)



T9北2拡張区柱根等検出状況 (南から)



T9北2拡張区土層断面 (西から)



T9北2拡張区柱根列検出状況 (南東から)



図版30 小山崎遺跡 (2)

(2)舟森遺跡 (遺跡番号2,234)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字直世字舟森、五反割

調査員 渋谷孝雄

調査期日 発掘調査 平成7年7月18～25日(6日間)

起回事業 県営ほ場整備事業(洗沢川地区)

遺跡環境 J R羽越本線吹浦駅の東方1.4km、独立丘舟森とその周囲の沖積平野に位置する。標高は舟森頂部で15m、水田部で1.7～3.1mを測る。周囲の微高地や高台に小山崎、丸池、築壇林、箕輪の縄文時代早期から晩期までの各集落跡がある。

調査状況 ほ場整備事業で破壊されることになる用排水路にT1からT9までのトレンチを設定し、重機で表土を除去し、徐々に掘り下げながら遺構の有無を確認して出土遺物の採取を行った。

調査結果 各トレンチから縄文時代中期～後期、平安時代の遺物が整理箱に2箱出土した。遺物包含層の直下はいずれも未分解の有機物層をなっており、遺構は検出されなかった。遺物は山麓に近いT7とT1、T2、T3、T6の独立丘の舟森周辺部で多く出土したが、いずれも泥炭層直上から出土しており、流れ込みによる再堆積と考えられる。



第25図 舟森遺跡概要図



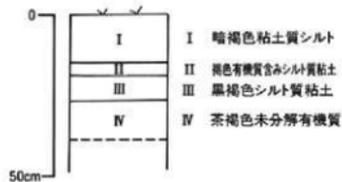
遺跡近景T1全景（西から）



T1遺物出土状況（南から）



T1土層柱状図



T7土層柱状図



出土遺物(1)



出土遺物(2)



出土遺物(3)



出土遺物(4)

(3) 五百刈遺跡 (平成3年度登録)

所在地 山形県鶴岡市大字下川字五百刈

調査員 長橋 至

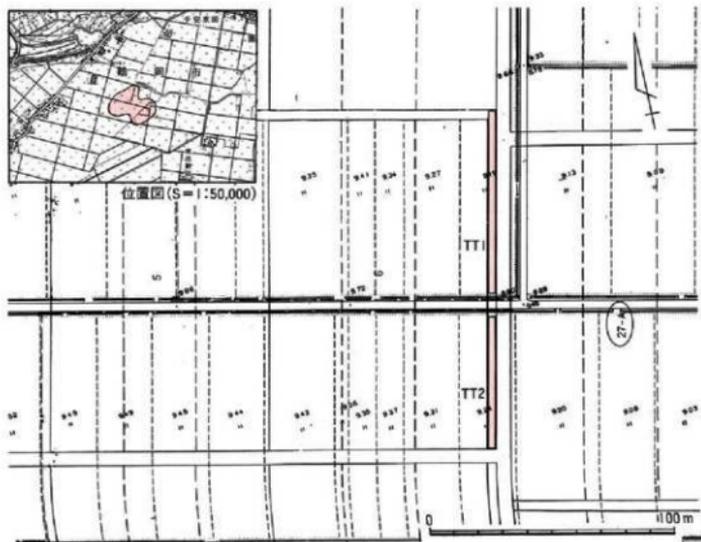
調査期日 発掘調査 平成7年8月7～11日

起因事業 県営ほ場整備事業 (下川地区) 排水路設置

遺跡環境 下川集落北東部約1kmの水田に立地。標高は9～10mを測る。遺跡範囲は、東西490m×南北400mの不定形となる。

調査状況 遺跡内で排水路掘削工事にかかる部分130m (幅3.5m) について発掘調査をおこなった。北側75mをTT1、南側55mをTT2とした。

調査結果 TT1では15の溝跡、7基の土壇、柱根の遺存する建物跡1の他多数の小ピットが検出された。溝跡の大半は磁北からやや南に傾く共通性がみられる。覆土は暗青灰色砂質シルトのものが多い。SD2から墨書土器 (須恵器坏) や高台坏 (須恵器) 等が出土した。土壇は比較的浅いものが多く、SK1は一辺110cmの方形で深さ10cm、SK7は90×75cm深さ10cmで覆土中より赤焼き土器の皿が出土した。SB24は柱根が遺存する建物跡で、5基の柱根が検出された。調査区が狭く、全体の構成は不明だが、主軸はほぼ磁北と一致し、柱間は180から200cmを測る。TT2では調査区の北半部で遺構が検出された。SE25は、ほとんど原形を残さないが井戸跡と考えられる。わずかに井戸枠に使用されたとみられる材が断片的に出土したにとどまる。



第26図 五百刈遺跡概要図





遺跡近景 (北東から)



TT1完掘状況 (南から)



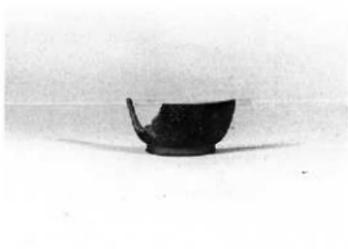
TT2完掘状況 (北から)



SB24建物跡 (南から)



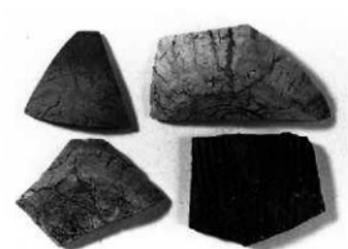
SE25井戸跡土層断面 (東から)



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)



出土遺物 (3)

(4) 柳久瀬A遺跡 (平成4年度登録)

所在地 山形県東田川郡藤島町大字柳久瀬

調査員 長橋 至

調査期日 発掘調査 平成7年7月31日～8月3日

起回事業 担い手育成基盤整備事業 (柳久瀬地区)

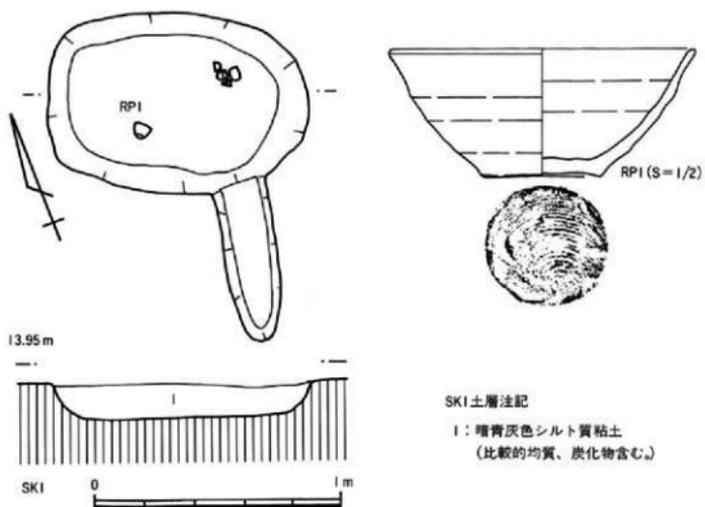
遺跡環境 藤島町柳久瀬集落の北側隣接部分一帯、藤島川左岸の河岸段丘上に立地する。地目は水田、畑、墓地で標高は13～15mを測る。

調査状況 遺跡内で包含層まで掘削の及ぶ場所について発掘調査をおこなった。発掘調査地区以外は盛り土工法で現状保存となる。A地区は遺跡北西の遺物包含層の状況確認、B地区は切り土に伴う調査、C地区は水路 (パイプ) 設置予定地の発掘調査である。

調査結果 A区では、調査区中央7×8mの範囲で良好な平安時代の遺物包含層が検出された。盛り土による現状保存地区となる。B区については、切り土部分の大半について調査をおこなった。面積は70×12mの約840㎡程となる。調査区西側は過去の土地改良によりかなり土が動いており、遺構・遺物は検出されなかった。調査区東側端で土壌が1基検出された (SK1)。長径105cm×短径75cm、深さ12cm程の小土壟で、覆土から赤焼き土器完形品1、破片数点が出土した。C地区は、パイプ設置部分幅1.7m、長さ130mについて調査をおこなった。昨年度の試掘調査時でも遺構・遺物は希薄な地区とされていたが、今回の調査でも須恵器・赤焼き土器片が数点出土したにとどまる。



第28図 柳久瀬A遺跡概要図



第29図 柳久瀬 A 遺跡検出遺構・出土土器実測図



遺跡近景 (A地区) 西から

図版33 柳久瀬 A 遺跡 (1)



B地区土層断面（東から）



B地区調査状況（東から）



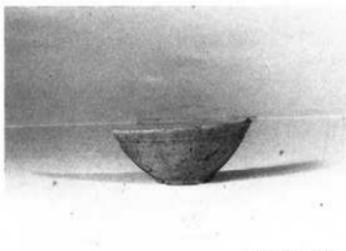
B地区SK1核出状況（東から）



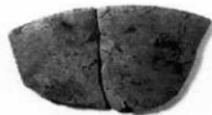
B地区SK1発掘状況（北東から）



C地区調査状況（西から）



出土遺物（1）



出土遺物（2）



出土遺物（3）

(5)名木沢橋跡 (遺跡番号735)

所在地 山形県尾花沢市大字名木沢字上ノ原

調査員 渋谷孝雄

調査期日 発掘調査 平成7年4月25～28日(4日間)

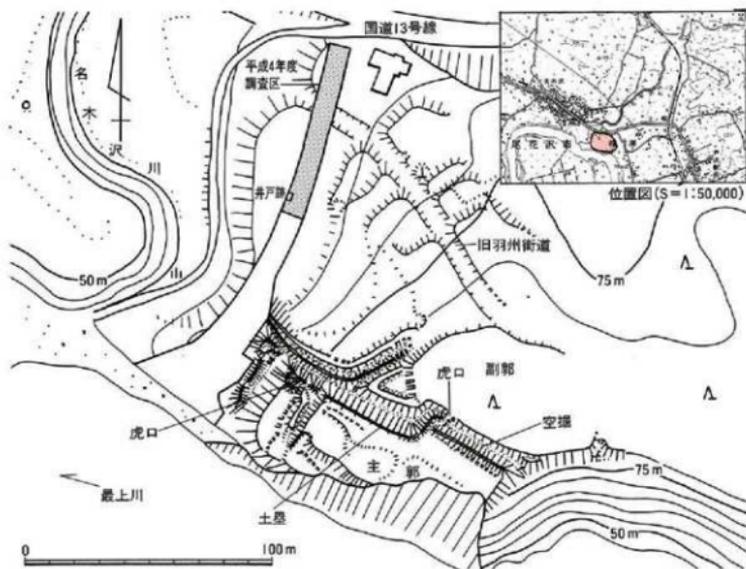
起因事業 一般農道整備事業(舟戸地区)

遺跡環境 J R奥羽本線芦沢駅の西北西方800m、名木沢川と最上川の合流点の南の標高80mの最上川右岸の段丘に立地する。橋の南、西は最上川との比高差30mの天然の要害となっている。橋は東西140m、南北80m程の規模をもち、主郭と副郭の二郭で構成され、主郭には2ヶ所の虎口が認められ、空堀、土塁が巡る。

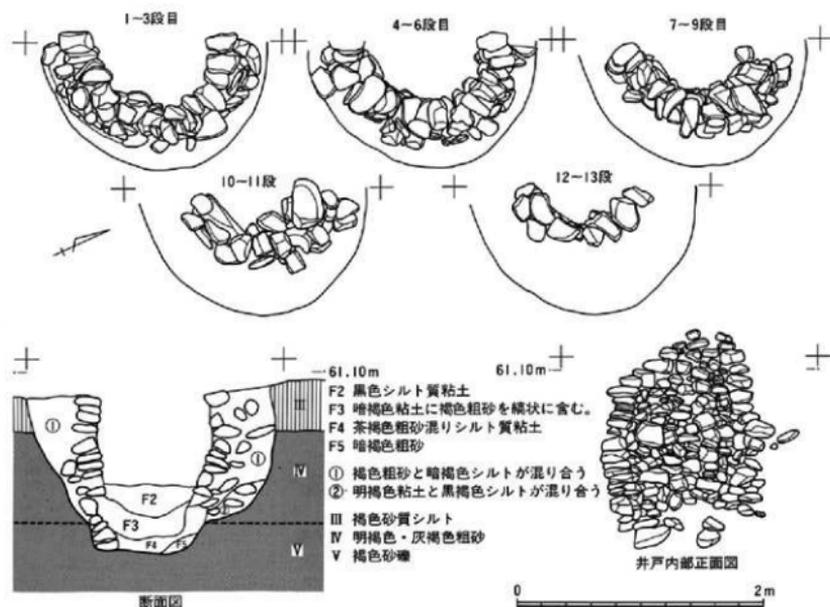
調査状況 平成4年度に緊急発掘調査が行われ、その調査区の西に隣接して橋桁製作場所を対象に2次調査を予定していたため、一部用地外となる井戸跡1基が一部未調査のままとなっていた。ところが、橋桁は工場製作となったため、2次調査は不要となり、未調査のまま残っていた井戸跡の用地内の調査を今回実施したものである。

調査結果 井戸の掘り方は直径約1.8m、確認面からの深さも1.8mを測る。掘り方は底面から30cmの位置で直径90cmに狭まる二段掘りとなっており、河原石を15段程積み上げた石組の井戸となっている。河原石は一部に加工があるものの、大半は未加工である。

今回、遺物の出土はなく、橋の存続した時代に遡るものであるとの確証は得られなかった。



第30図 名木沢橋跡概要図



第31図 名木沢樋跡検出井戸跡平面図他



井戸跡再検出状況（西から）



6段目検出状況（東から）



13段目検出、土層断面（東から）



井戸内面石積み状況（東から）

図版35 名木沢樋跡

(6)元木遺跡 (遺跡番号638)

所在地 山形県村山市

大字土生田字元木

調査員 名和達朗

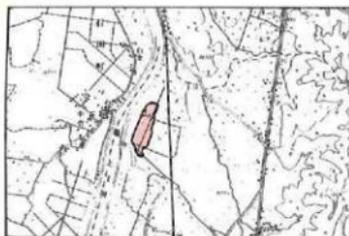
調査期日 平成7年10月12日

起回事業 ふるさと興道緊急整備事業 (拝見地区)

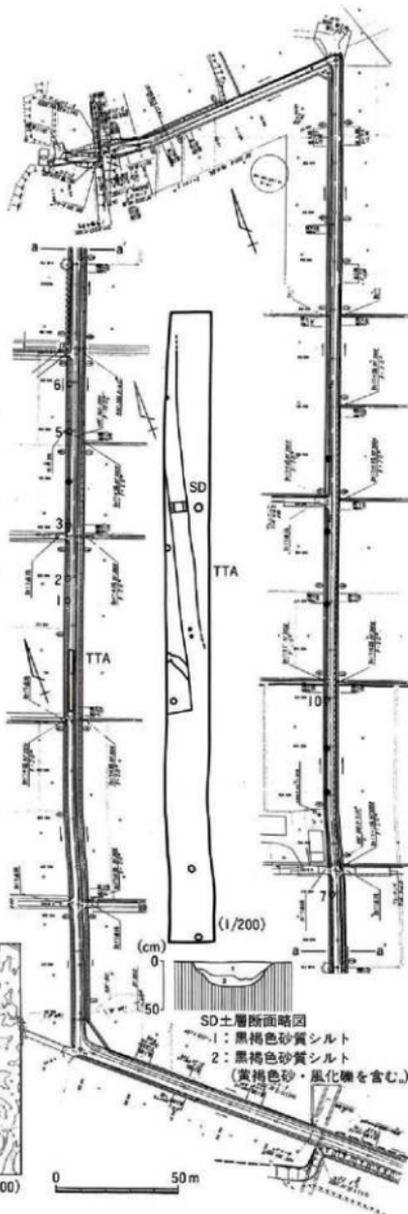
遺跡環境 遺跡は、JR奥羽本線袖崎駅の北方1.5km、北流する最上川右岸の河岸段丘に立地する。遺跡の南縁は沢の目川右岸で、すぐ西方は最上川との合流地点である。地目は主に水田で、標高は、71.5mである。

調査状況 計画路線内について、トレンチ1本、20m間隔を基準に坪掘り13箇所を行った。

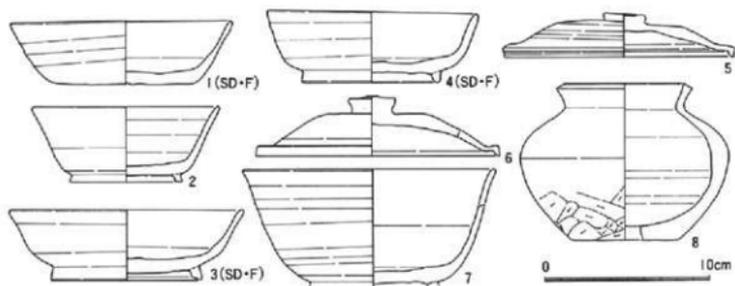
調査結果 トレンチでは、溝跡1条、ピット5本が検出され、覆土から須恵器を主とする遺物が多数出土した。坪掘り区では、7箇所から遺溝・遺物が検出され、長さ360mに及ぶ分布範囲がみとめられた。深さは、水田面下17~68cmである。地形想定も含め遺跡範囲は、東西260m・南北550m、推定面積64,000平米である。時期は、出土土器の特徴等から奈良時代を主とする平安時代にかけての集落跡と考えられる。



位置図 (S=1:50,000)



第32図 元木遺跡概要図



第33図 元木遺跡出土遺物実測図



元木遺跡近景（南から）



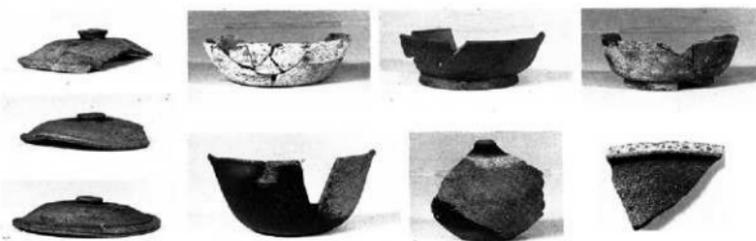
TTA溝跡検出状況（南から）



TTA溝跡土層断面



TTA土器出土状況



出土土器（1/3）

図版36 元木遺跡

(7) 秋葉山橋跡 (平成7年度登録)

所在地 山形県西村山郡朝日町大字大谷秋葉山

調査員 渋谷孝雄

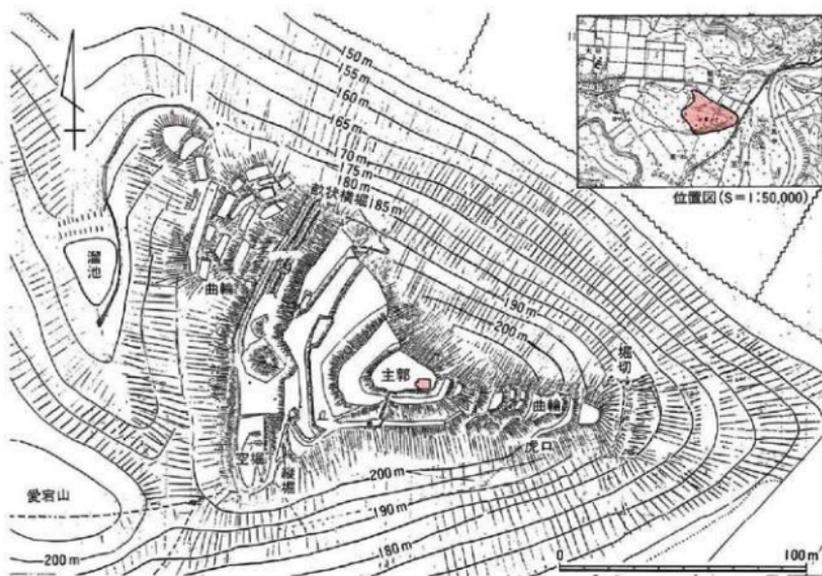
調査期日 A調査 平成7年11月2日 立会い調査 平成7年11月17・18日

起回事業 担い手育成基盤整備事業 (大谷地区)

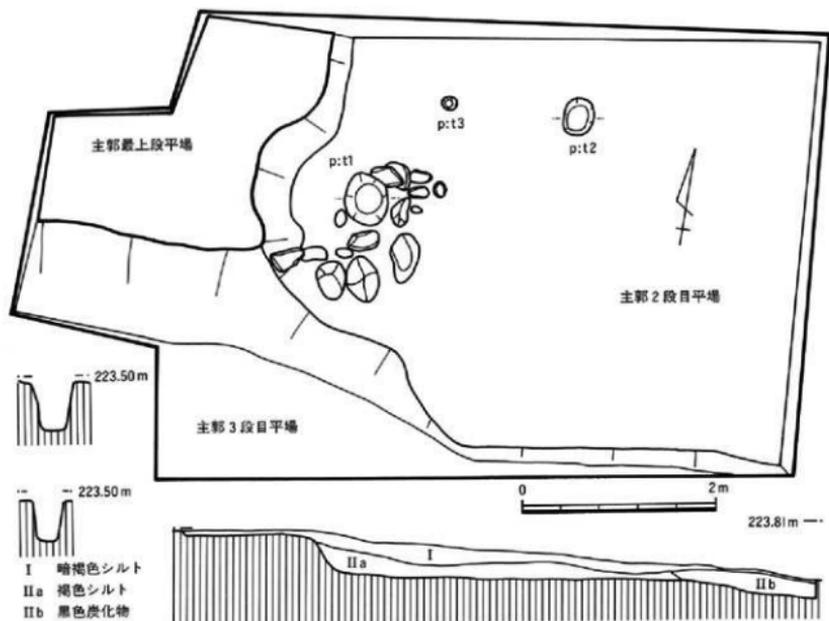
遺跡環境 大谷小学校南東1.3kmの秋葉山、愛宕山連山の秋葉山山頂が中心となる。秋葉山は標高224.6mを測り、沖積面からの比高は約75mとなっている。置駒地方と西村山地方を結ぶ街道上にある独立丘である。西南1.7kmには真木山城、北西1.5kmには猿田橋を望むことができる。秋葉山山頂の25×17m程の主郭を中心に、東の尾根筋の標高190mの地点まで曲輪を配し、深さ10m、底幅5m、長さ15mの堀切で限っており、西側には地形を活かして扇型に曲輪群、縦堀、空堀、畝状横堀を配している。

調査状況 今回、秋葉山橋跡の有効活用のため、上記事業の一環で遊歩道の整備と主郭部に展望デッキと展望四阿の建設が計画されたため、遺構の保存のため調査を行った。調査対象は事業計画で遺構を損傷する恐れのある展望四阿の建設予定地である。

調査結果 調査面積は約35m<sup>2</sup>で、主郭最上段では表土直下で凝灰岩の岩盤となり、約30cmの比高差のある2段目で凝灰岩に掘り込まれた柱穴3基を検出した。なお、I～II層中で十数個の河原石が検出されたが、秋葉山神社に関連するものと考えられる。遺物はI・II層から15枚の寛永通寶が出土したが、橋の関連遺物ではない。なお、柱穴は保存された。



第34図 秋葉山橋跡概要図



第35図 秋葉山橋跡検出遺構平面・断面図



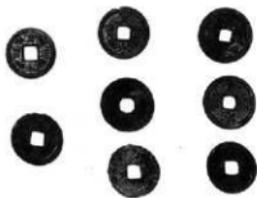
橋跡遺景 (北東から)



主郭部近景 (西から)

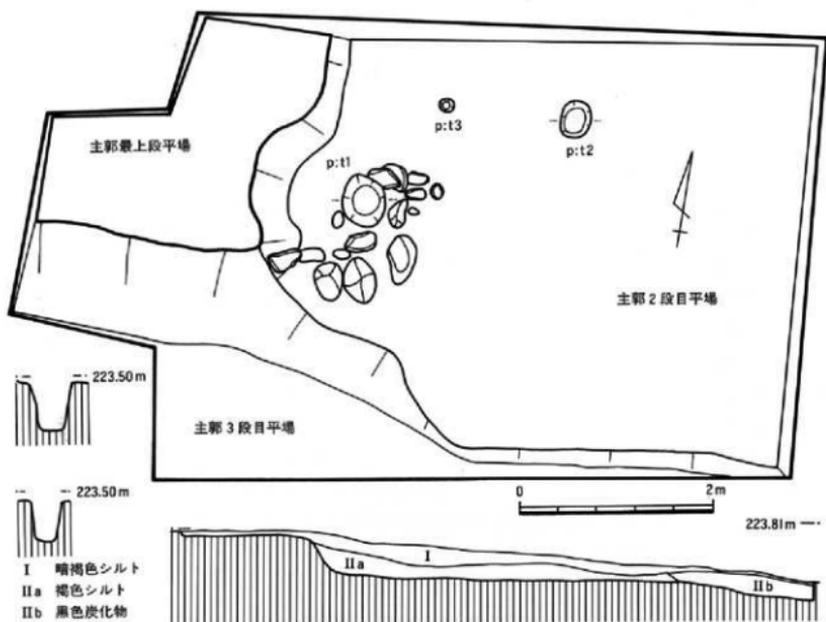


調査状況 (西から)



出土遺物

図版37 秋葉山橋跡



第35図 秋葉山楯跡検出遺構平面・断面図



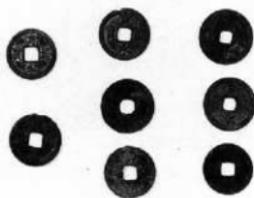
楯跡遠景（北東から）



主郭部近景（西から）



調査状況（西から）



出土遺物

図版37 秋葉山楯跡

(8)石コロ遺跡(平成6年度登録)

所在地 山形県山形市上桜田字石コロ

調査員 長橋 至

調査期日 立会い調査 平成7年9月4日・10月25日

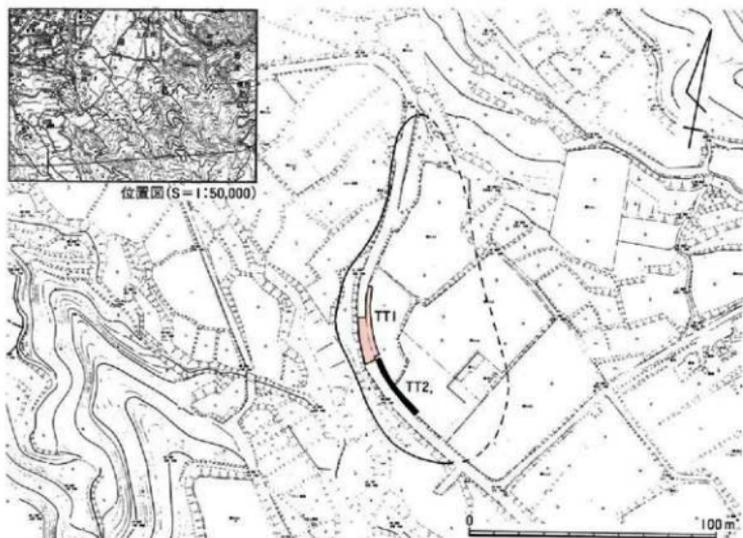
起回事業 悠想の丘整備事業

遺跡環境 山形市南東部、東北芸術工科大学東側の丘陵傾斜地に立地する。標高は約255mを測る。平成6年度発見時の遺跡範囲を現地の状況から拡大する。

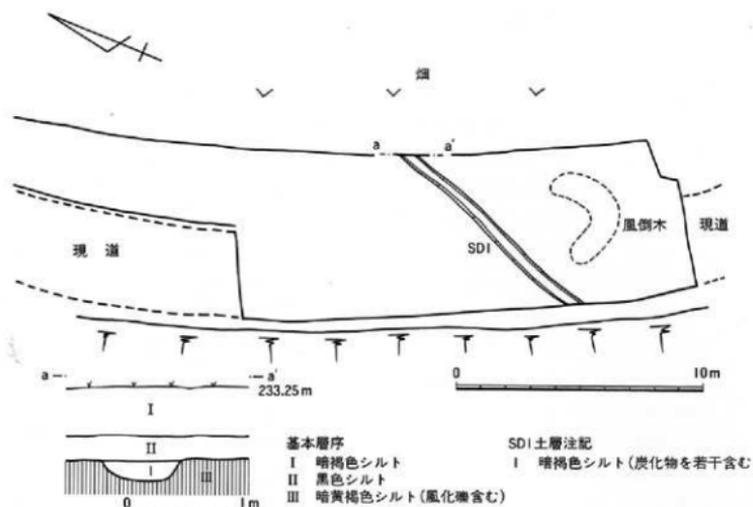
調査状況 道路の拡幅部分及び路床の入れ替え部分について立会い調査をおこなった。現道東側拡幅部分について9月4日、その結果に基づく路床入れ替え部分の調査を10月25日に実施した。

調査結果 遺跡南側、TT2(27m)部分は、ぶどう畑の柵アンカー設置によりほとんど擾乱を受けていた。遺物も全く出土しない。TT1は、道路拡幅部分の立会い調査時に溝跡1条と赤焼き土器小破片が認められたためためため、再調査を実施した。調査の結果、幅50cm、検出面からの深さ15~20cm程の溝跡が追認された。調査範囲20×6mでは、そのほかに風倒木痕が1箇所検出された。遺物包含層は認められず、溝跡覆土からは、遺物の出土はなかった。

遺跡は、今回調査対象とした地点を西端とし、東側に広がると推測されるが、過去の畑地造成で削平を受けたことも考えられる。地形から、東西60m×南北140mの範囲とする。



第36図 石コロ遺跡概要図



第37図 石コロ遺跡検出遺構平面・断面図



遺跡近景 (南から)



トレンチ調査状況 (南から)



TTI遺構完態状況 (東から)



TTI、SDI土層断面 (東から)

図版38 石コロ遺跡

(9) 西原C遺跡 (昭和53年度登録)

所在地 山形県村山市大字名取字腰山

調査員 渋谷孝雄

調査期日 B調査 平成7年6月8日 発掘調査 平成7年9月26~29日

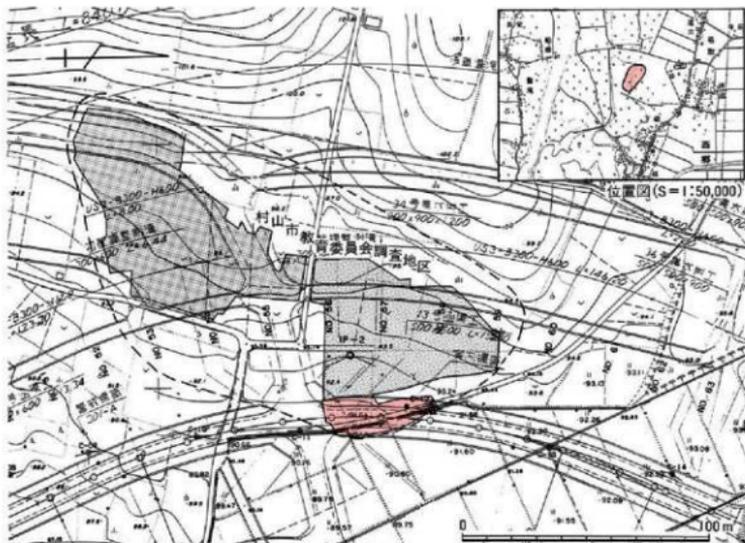
起因事業 一般県道東根長島線特改1種 (村山市道六)

遺跡環境 J R奥羽本線橋岡駅の北西3.5kmに位置し、最上川右岸の丸森山、河島山、以後の森、腰山、水道山と連なる丘陵の東斜面に立地する。この丘陵には旧石器時代から中世まで各時代に属する多くの遺跡が分布している。

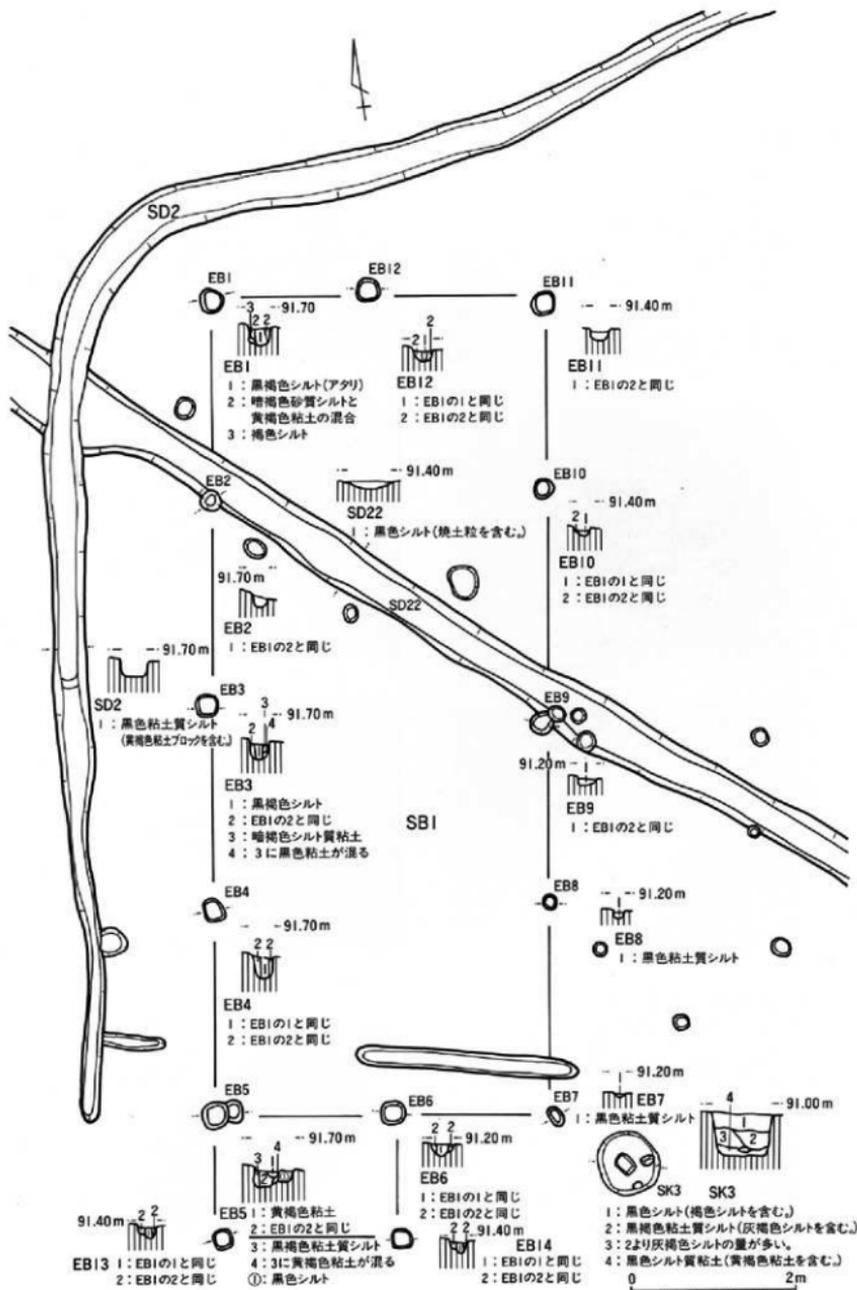
調査状況 本遺跡を含む13.9ha一帯が「河島山ニュータウン」として、村山市によって造成されることになり、この基幹道路として上記事業で県道も整備されることになった。

県教委と村山市教育委員会はそれぞれの事業地区内の遺跡の保護について分担して対応することとなり、平成6年度に、ニュータウンについては平成7年度に緊急発掘調査で記録保存とすることで事業者との調整がつき、県道部分については平成7年度に用地内の試掘調査を行い、その結果を見た上で対応を決定することとなった。試掘調査では、道路予定地の内約450㎡が遺跡内に入ることが明かとなり、比較的短期間の調査で終る見通しが得られたため、年度内に記録保存の発掘調査を行うことになった。

調査結果 調査面積は村山市教委の第2調査区南東部に隣接する約500㎡である。行行き4間、梁行き2間の小規模な掘り方をもつ掘立柱建物跡1棟と溝跡2条、土坑1基が検出された。出土遺物はSD22で須恵器破片が1点、EB14で土師器片1点の2点である。



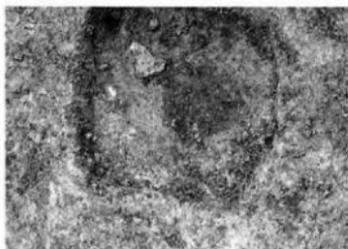
第38図 西原C遺跡概要図



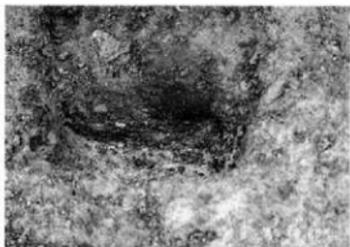
第39図 西原C遺跡検出遺構平面・断面図



SBI他検出状況 (南から)



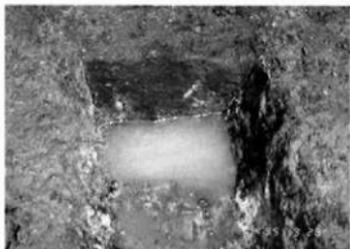
SBIEB14アタリ検出状況 (南から)



SBIEB14土層断面 (南から)



SK3土層断面 (南から)



SD2土層断面 (南から)



SD2土層断面 (東から)



SBI他完掘状況 (南から)



出土遺物

(10)宮の前遺跡 (遺跡番号615)

所在地 山形県村山市大字富並字宮の前

調査員 長橋 至

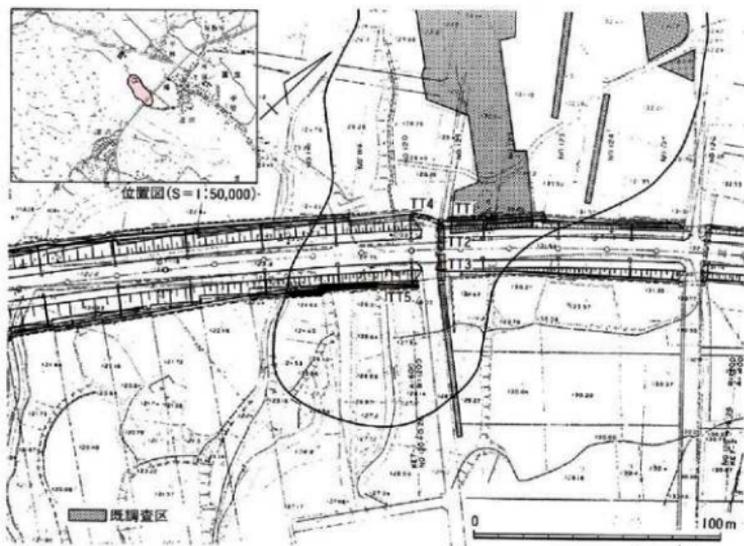
調査期日 立会調査 平成7年9月21・22日 10月2日

起因事業 国道347号道路改良に伴う水路付け替え工事

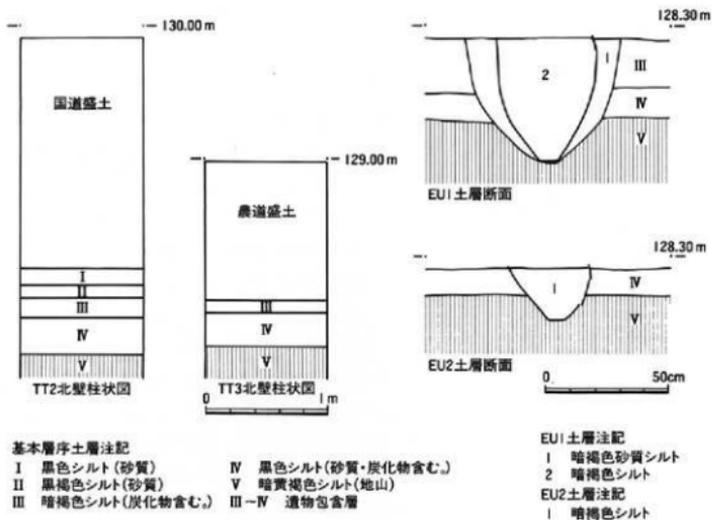
遺跡環境 富並川左岸の段丘上に立地する。平成5年度ほ場整備地区緊急調査実施。

調査状況 水路付け替え部分について、トレンチ (TT) 調査をおこなう。TT1: 2×10m、TT2: 3.5m×8m、TT3: 3.5m×10m、TT4: 2×7m、TT5: 3.5×55m (内精査は北側6m部分) の計5本のトレンチを設定した。調査は、現国道下も対象とするため工程上、TT1・2・4を9月、TT3・5を10月に実施した。

調査結果 今回の調査地区は、平成5年の緊急調査区、遺跡南端部、いわゆる土器捨て場に隣接する場所である。TT1は、前回の調査区と重複しており、遺物は縄文土器数片が出土したにとどまる。TT4は、層的には遺物包含層が見られたが、出土量は少ない。TT2・3では大量の遺物が出土した。投棄された状況を呈し、包含層は30cm程の厚さとなる。磨製石斧、柄状の作りだしのある石製品のほか、土器片が10箱程出土した。TT5は北側5m以外は削平を受け、遺構は未検出である。北側 (現国道南端より4m南) で遺物包含層と共に埋設土器 (EU) が2基検出された。EU1は正位、EU2は西傾していた。墓域の広がり予想される。時期は、縄文時代晩期初頭～中葉と考えられる。



第40図 宮の前遺跡概要図



第41図 宮の前遺跡土層断面図



遺跡近景(北から)



4トレンチ土層断面(東から)

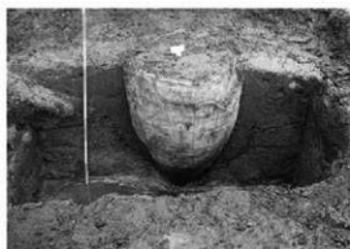


3トレンチ土器出土状況



5トレンチ北東隅埋設土器(南から)

図版40 宮の前遺跡(1)



5 トレンチ埋設土器 (EU1)



5 トレンチ埋設土器 (EU2)



出土遺物 (土器 1)



出土遺物 (土器 2)



出土遺物 (土器 3)



出土遺物 (筈状石器)



出土遺物 (磨製石斧)



出土遺物 (石製品)

図版41 宮の前遺跡 (2)

(11) 向名高遺跡 (昭和63年度登録)

所在地 山形県最上郡戸沢村大字名高字撃打野

調査員 渋谷孝雄

調査期日 発掘調査 平成7年12月4～15日 (10日間)

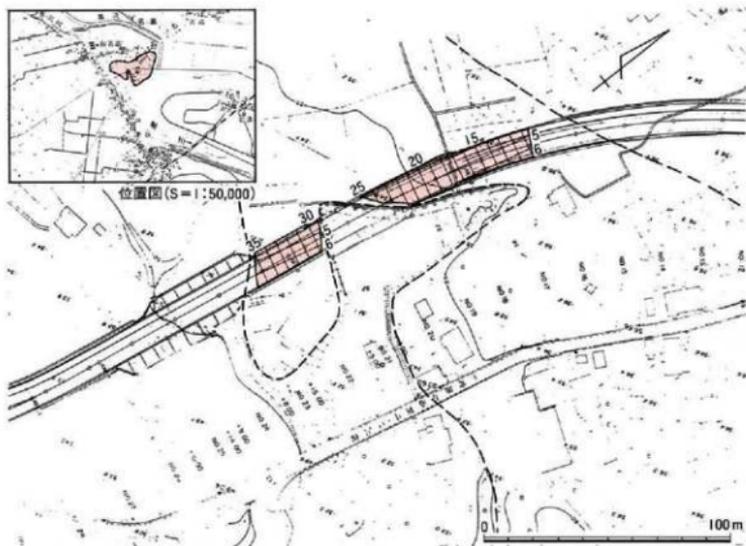
起回事業 主要地方道新庄戸沢線特改1種

遺跡環境 J R陸羽西線津谷駅の北方約1.2kmに位置し、鮭川によって形成された段丘上に立地する。地目は畑地、果樹園、宅地等となっている。標高は50～56mを測り、沢を挟み南側に津谷遺跡がある。遺跡範囲は東西500m、南北250mに及ぶが、今回の調査区は、水田となっている沢の北側 (第1調査区) と南側 (第2調査区) に分かれている。

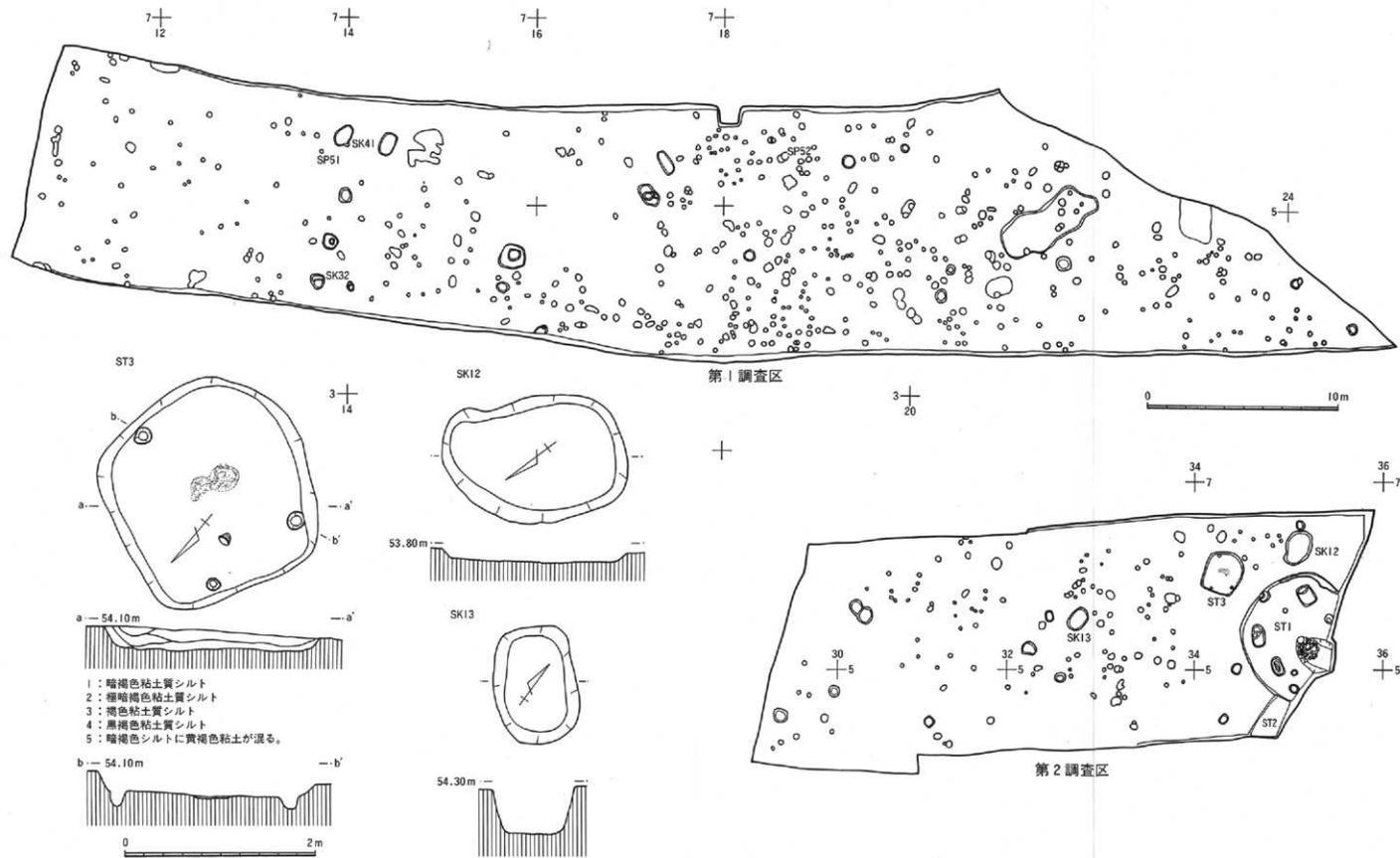
調査状況 遺跡内に入る道路用地を対象として調査区を設定した。第1調査区は744㎡、第2調査区は348㎡、合計1,092㎡の表土を重機で除去し、面削りで遺構を検出し、精査・記録を行った。

調査結果 第1調査区では径20～35cmのピット488基、土坑2基、落込み18基を検出した (第43図上段) が、遺物はピット3基 (S P51、52、53)、土坑2基 (S K32、41) から縄文土器や剥片が1点出土するに留まった。文様のある土器はなく、時期も明確ではない。

第2調査区では竪穴住居跡が一部検出を含めて3軒、土坑2基、ピット136基を検出し (第43図下段)、竪穴住居跡S T 1の堆積土や炉跡、柱穴等を中心に整理箱5箱分の縄文土器、石器が出土した。



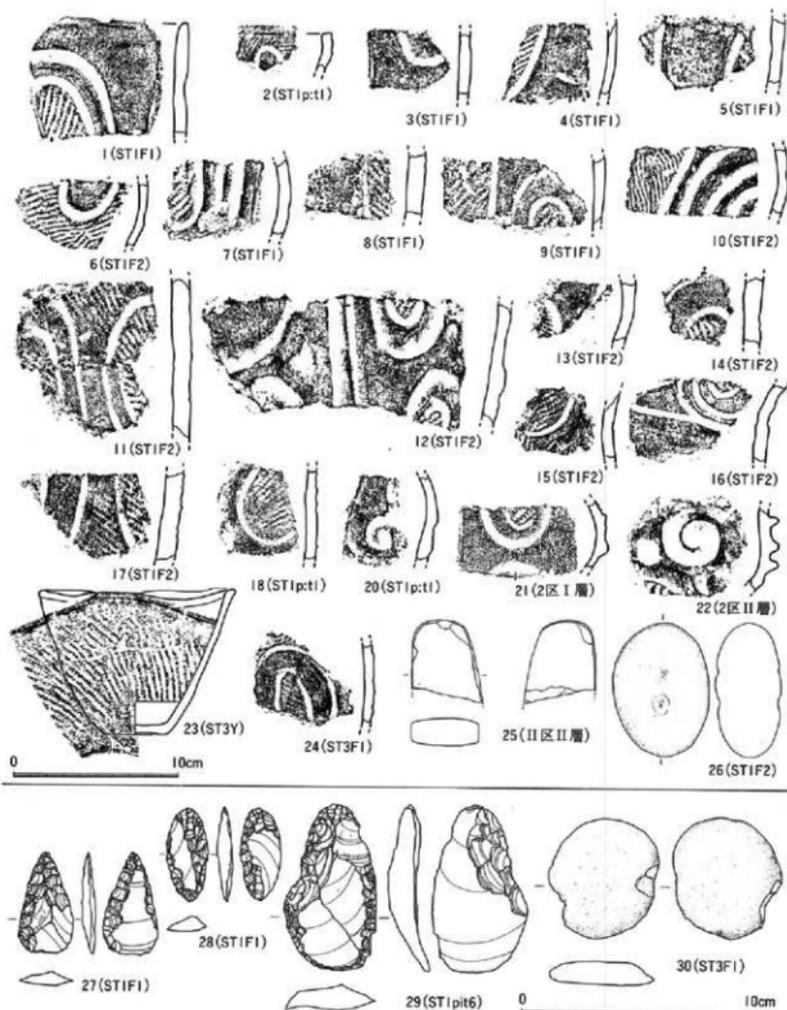
第42図 向名高遺跡概要図



第43回 向名高遺跡遺構分布図、平面・断面図



ST1は第2調査区南端で検出され、南部は段丘崖で開析されている。ST2を切っており、直径6.8m、確認面からの深さは最大で45cmを測り、壁は急角度で立ち上がっている。堆積土は5層に分かれる。床面は南側に緩やかに傾斜し、中央部がやや窪んでいるが、全体的に硬く叩き締められている。床面で複式炉1基、柱穴を含むピット8基、東半部で部



第45図 向名高遺跡出土遺物拓影、実測図

分的な周溝を検出した。

E L 10は南に開く馬蹄形のプランをもち、先端部に径30cm、深さ20cmの粗製深鉢の中程部分を埋置した複式炉で、さらに、床面から径30cm、深さ80cm程を掘り込んで粗製の深鉢を設置している（2号）。60個強の河原石を組み合わせて住居床面から40cmの位置に炉の底面がある。堆積土は9層に分けられ、2号埋設土器は炭化物と焼土が充填されていた。

P i t 1、4、6、7の楕円形ないしは長方形のプランを持ち、部分的に溝状に深くなるものが主柱穴になるものと考えられ、これらは床面から60～70cmの深さを持つ。P i t 3は床面から20cmと浅いが、P i t 2は44cm、5は38cmとやや深い。

周溝E D 12は東部で部分的に検出された。幅15～50cm、深さは20cm前後である。

堆積土や、P i t 内から沈線や隆起線で縦方向に展開する楕円形のモチーフや渦巻文を描く土器片が出土した（第45図）。縄文時代中期後半の大木9式とみて良いだろう。

S T 2はS T 1の西側で部分的に検出した住居跡であるが、詳細は不明である。

S T 3はS T 1の北東にある一辺2m～2.2mの南東隅が彫らむ隅丸方形のプランを持つ、小規模な住居跡で確認面からの深さは13～25cmを測る。堆積土は5層に分かれ、床面は中央部がやや窪む。床面中央が焼けており、この部分が地床炉と考えられる。床面で3基の柱穴が検出された。径14～20cm、深さは13～16cmと小規模である。床面で波状口縁で縦ころがしの小型深鉢1個と礫石錘1点等が出土した（第45図、図版44）。

今回の調査では、第2調査区の南端部で縄文時代中期後半の集落の一部が検出された。第1調査区は縄文時代と断定できる遺構の分布は希薄であると言える。



調査区近景（北から）



第1調査区柱穴等検出状況（南から）



第1調査区柱穴等発掘状況（南東から）



第1調査区南半部柱穴等発掘状況（北西から）

図版42 向名高遺跡（1）



第2調査区ST1～3他検出状況（北東から）



第2調査区ST3土層断面（西から）



第2調査区ST1、2土層断面（北西から）



第2調査区ST1土層断面（東から）



第2調査区ST1床面遺構検出状況（西から）



第2調査区ST1伊助土層断面（西から）



第2調査区ST1伊助全景（南から）



第2調査区ST1伊助全景（西から）

図版43 向名高遺跡（2）



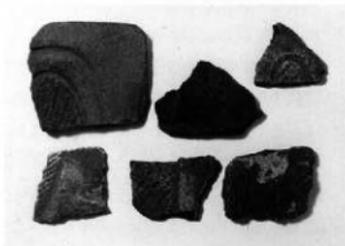
第2調査区ST1炉跡2号埋版土器 (1/12)



第2調査区II層出土土器 (1/3)



第2調査区II層出土土器 (1/3)



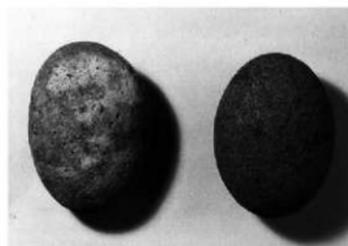
ST1F1出土土器 (1/3)



ST1F2出土土器 (1/3)



ST1F2出土土器 (1/3)



ST2F2出土土器 (1/3)



ST3出土土器 (1/3)

図版44 向名高遺跡 (3)

(12) 下柳A遺跡 (遺跡番号152)

所在地 山形県山形市大字青柳字上柳

調査員 渋谷孝雄

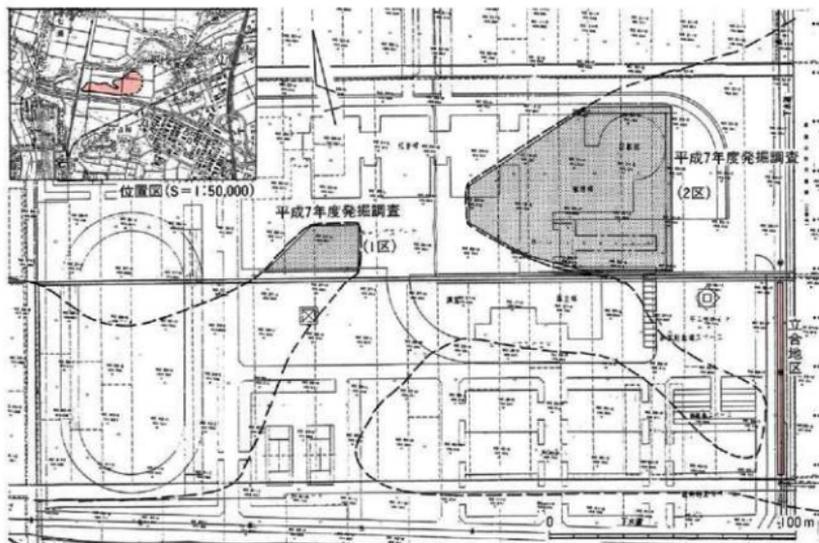
調査期日 立会い調査 平成7年7月29日

起回事業 山形県立保健医療短期大学整備事業

遺跡環境 J R奥羽本線南出羽駅の南東800mに位置し、村山高瀬川の左岸の自然堤防上に立地する。標高は107mを測り、地目は水田と転作による畑地となっている。

調査状況 平成5年度の県道の拡幅工事による発掘調査で古墳時代中期の竪穴住居跡4軒が検出され、それまでの登録地から西側に大きく延びていることが判明していたが、平成6年6月に本遺跡の西半部が上記事業地区に入ることが決定した。この決定を受け、平成6年度秋の試掘調査を踏まえて、工事により破壊される部分について平成7年度に県環境保健部の委託を受けて財団法人山形県埋蔵文化財センターが緊急発掘調査を行い、古墳時代中期の竪穴住居跡21軒等が検出された。また、この用地造成に伴い、用水路の付け替えが遺跡内で行われることとなったため、その地区を対象として立会い調査を行った。重機で表土を除去し、徐々に地山面までの掘り下げを行った。

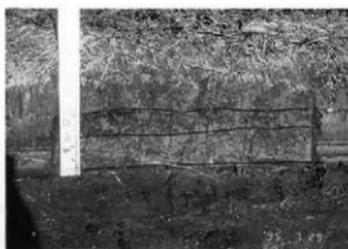
調査結果 表土直下から一括土器の坏、甕等を含む古墳時代中期の土器が整理箱に2箱出土した。一括土器の出土状況から判断して、調査地区は過去のほ場整備で大きく削平されているものと考えられ、竪穴住居跡が存在したと思われるが、明瞭な形で土色変化を捉えることができなかった。



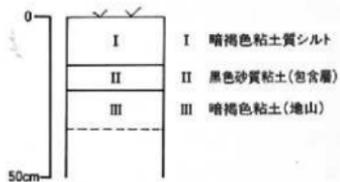
第46図 下柳A遺跡概要図



調査区近景（北から）



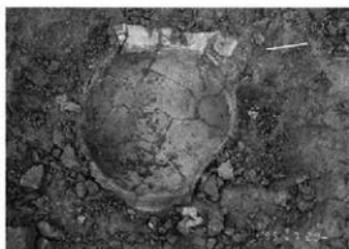
土層断面（西から）



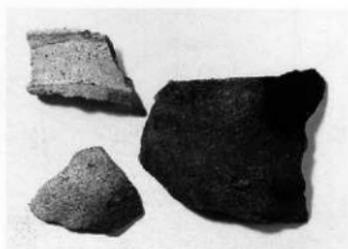
土層柱状図



土師器坏出土状況（東から）



土師器壺出土状況（東から）



出土遺物1



出土遺物2



出土遺物3 (1/3)

(13)大峯2遺跡、大峯3遺跡（平成3年度登録）

所在地 山形県飽海郡八幡町大字泥沢字大峯

調査員 渋谷孝雄

調査期日 発掘調査 平成7年6月20日～7月14日（13日間）

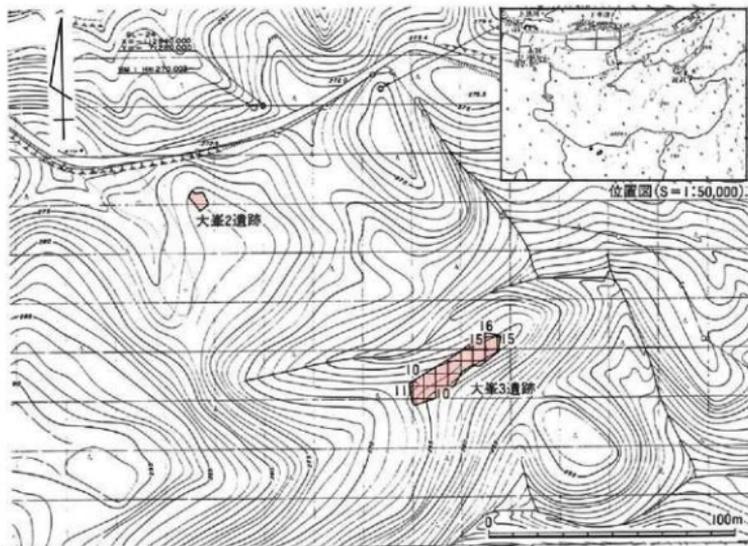
起回事業 国営農地開発事業鳥海南麓地区（泥沢工区）

遺跡環境 八幡町立日向小学校の南東1.5kmに位置し、日向川と荒瀬川に挟まれた山地の頂部に立地する。標高は大峯2遺跡で277m、3遺跡で266～269mを測る。西方約300mに縄文時代前期末、中期末の比較的大きな集落になると考えられる大峯1遺跡がある。

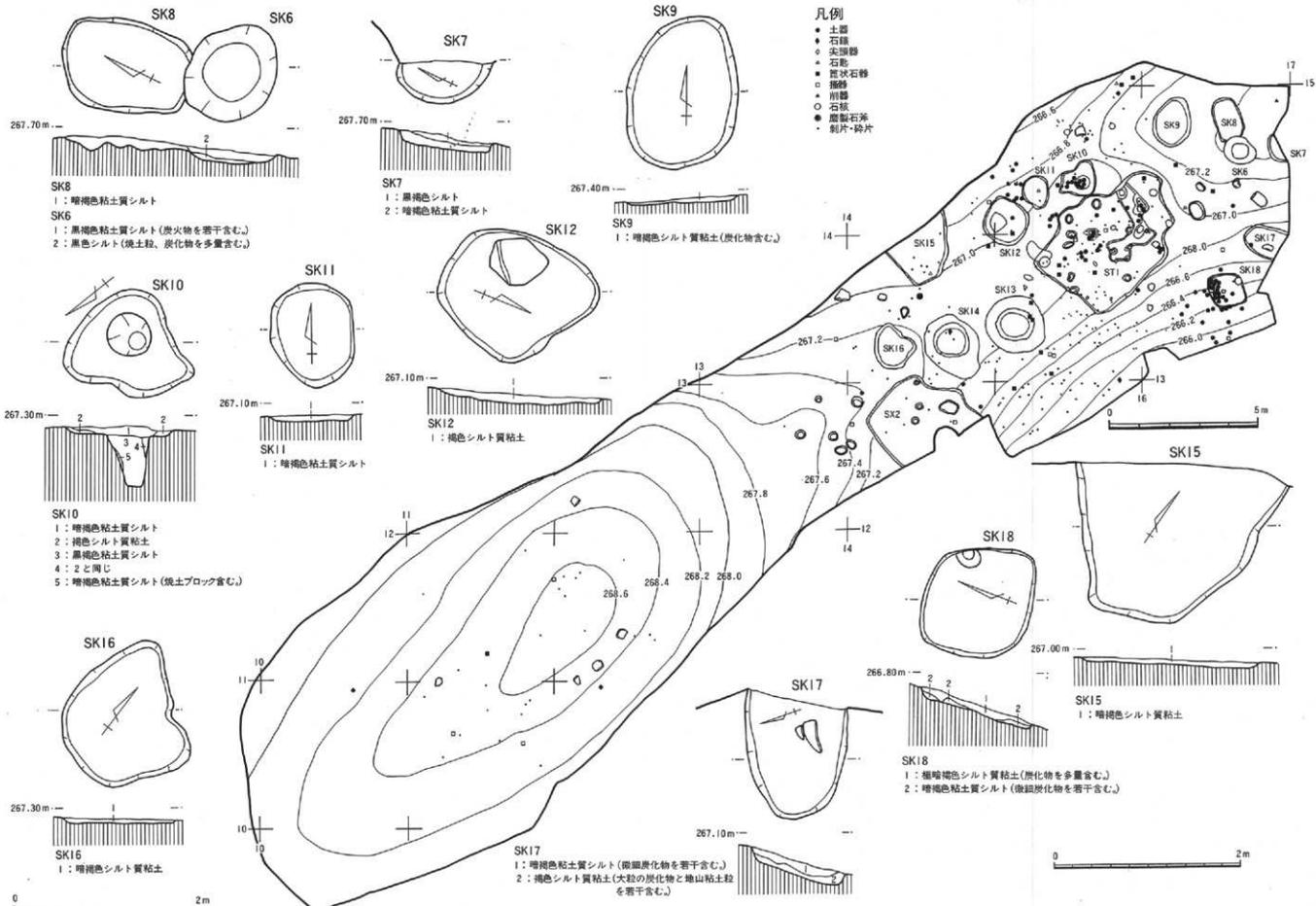
調査状況 平成3年度の試掘調査で確認された遺跡で、大峯2遺跡は比較的平坦な斜面にある小規模な遺跡、3遺跡も痩せ尾根に立地する300m程度の遺跡として登録された。両遺跡とも表土を重機で除去した後、手掘りで遺構検出・精査を行い、記録をとった。

調査結果 大峯2遺跡は約50m<sup>2</sup>の調査を行ったが、割片2点の出土に留まり、遺構も検出されなかった。

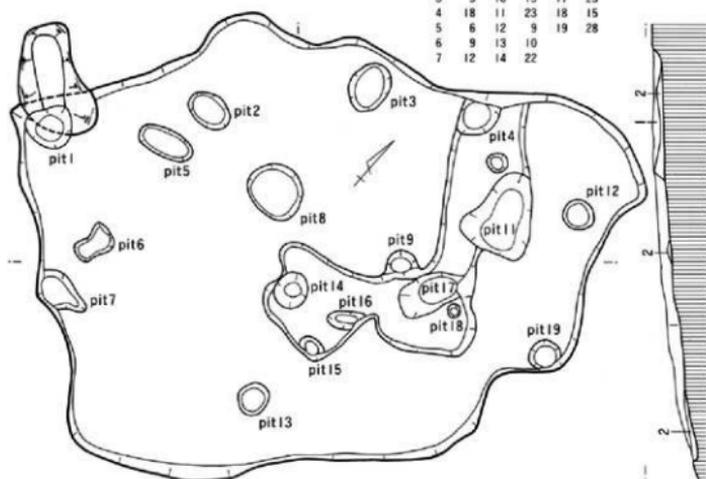
大峯3遺跡は約300m<sup>2</sup>を発掘した。大きく見積っても幅7m前後しかない痩せ尾根の鞍部に当たる東半部に遺構が集中し、西半部では遺構が検出されなかった。検出した遺構は竪穴住居跡1軒、壁の焼けた土坑2基、浅い土坑11基で、縄文土器や石器など340点の遺物を登録して取り上げた。遺物の分布も遺構のある地区に集中する傾向があり、西部の標高の最も高い地区にも配石と散漫な遺物の分布が認められる（第48図）。



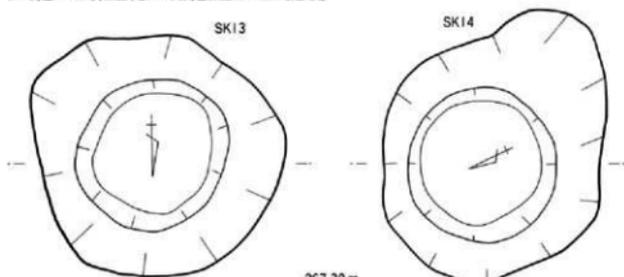
第47図 大峯2遺跡・大峯3遺跡概要図



No.	深さ	No.	深さ	No.	深さ
1	20	8	5	15	11
2	16	9	3	16	15
3	5	10	15	17	23
4	18	11	23	18	15
5	6	12	9	19	28
6	9	13	10		
7	12	14	22		



- 1: 暗褐色シルト質粘土(炭化物を若干含む)
- 2: 褐色シルト質粘土(地山の黄褐色粘土ブロックを含む)

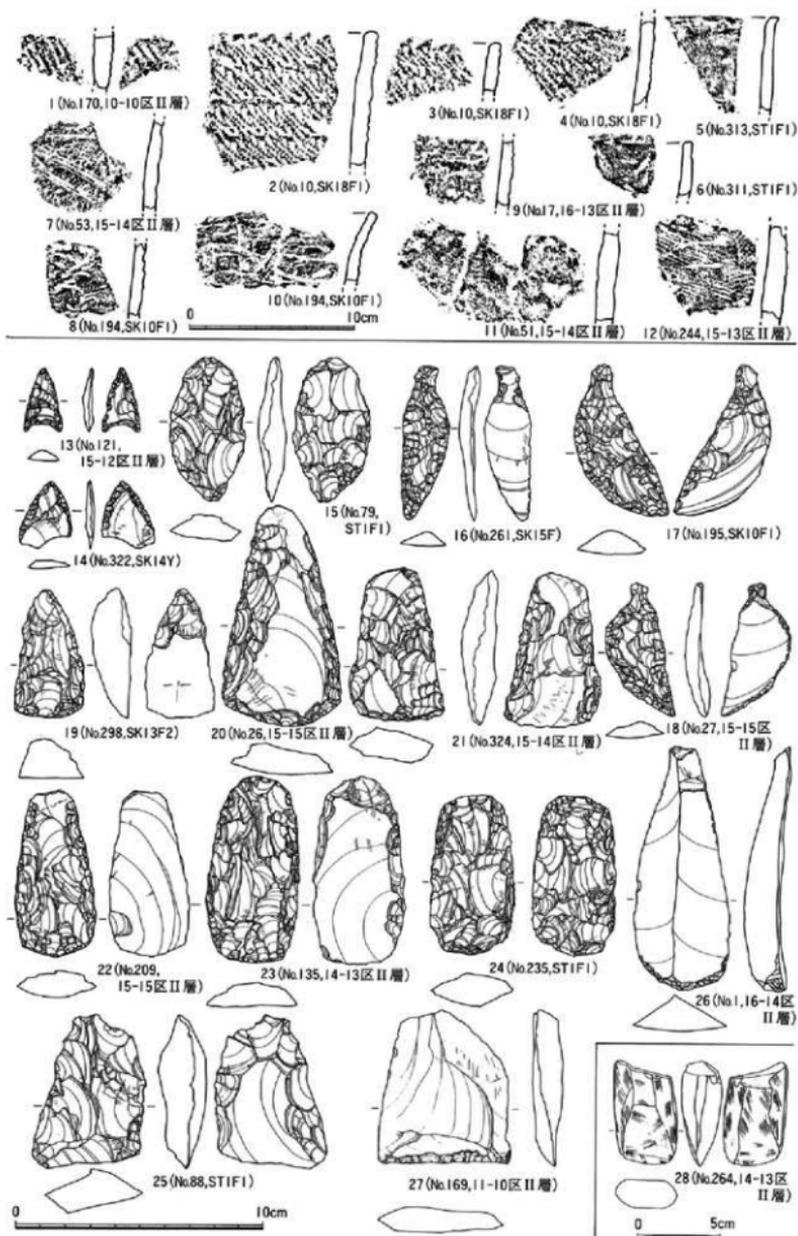


SK13、14

- 1: 黒色シルト(大粒の炭化物を若干含む)
- 2: 黒褐色シルト(焼土粒を若干、炭化物も若干含む)
- 3: 暗褐色粘土質シルト(焼土粒を多量、微細炭化物も多量含む)
- 4: 暗褐色粘土質シルト(焼土粒を大量、大粒の炭化物を若干含む。しまり弱い)
- 5: 黒色シルト(大量の炭化物を含む。底面が焼けており、焼土ブロックが浮いている)



第49図 大峯3遺跡検出遺構平面・断面図



第50図 大塚3遺跡出土遺物拓影、実測図

竪穴住居跡ST1は15・16-13・14区で検出した(第49図)。出入りのある不整形のプランをもち東西3.3~3.4m、南北の最大長が5mを測る。確認面からの深さは7~15cmで堆積土は2層に分かれる。床面は南に傾斜し、19基のPitが検出された。このうち、20cmを越える深さのあるものは、Pit1、11、14、17、28の5基でPit3、5、6、8、9、12は10cmに満たない。堆積土やPit内から70点弱の遺物が出土している。土器は無文で繊維を多量に含んでいる(第50図5、6)。石器には尖頭器(同図15)、トランシェ様石器(26)、笥状石器(24)3点等がある。

SK13、14は14・15-13区内で隣接して検出された(第48・49図)。径90~100cmの略円形で平坦な底面から急角度で立ち上がり、途中で大きく開く断面形となり、両者とも急角度で立ち上がる壁面が著しく焼けている。堆積土や埋没過程も同一と言える。SK13の堆積土から笥状石器(第50図19)3点、SK14の底面から石鏃(14)等が出土した。

浅い土坑のうちSK10、11、12、15、17、18から遺物が出土した。このうちSK18から、口唇部に刻みのあるRL縄文を原体とする同一個体の土器片が出土した(第50図2~4)。

土器は表裏縄文(第50図1)、沈線の認められるもの(7)、S字状連鎖沈文が認められるもの(8、10)の出土がある。縄文時代早期末から前期前半の時期に限定される。

石器は総数264点の内83%にあたる270点が剥片、碎片、石核で17%にあたる44点がtoolである。toolの内訳はトランシェ様石器1点を含む笥状石器が18点(40.9%)、削器が15点(34.1%)、石匙が5点(11.3%)、石鏃が2点(4.5%)、尖頭器、掻器、磨製石斧、磨石が各1点(各2.3%)となり、各種形態の笥状石器の多さが目につく。



大峯2遺跡近景(南東から)



大峯2遺跡調査終了(南東から)



大峯3遺跡近景(南西から)



大峯3遺跡調査状況(北東から)

図版46 大峯2遺跡・大峯3遺跡(1)



遺物出土状況（北東から）



ST1、SK13、14他検出状況（南西から）



SK6、7検出状況（北から）



SK10、11、12検出状況（北東から）



ST1検出状況（北西から）



ST1土層断面（東から）



ST1床面遺跡検出状況（北東から）



ST1他完掘状況（北東から）



SK13内遺物出土状況（西から）



SK13土層断面（北から）



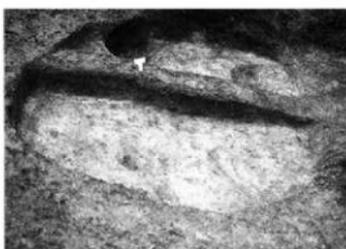
SK13完掘状況（北西から）



SK14土層断面（北西から）



SK14完掘状況（北西から）



SK18土層断面（西から）



出土土器Ⅰ（表）



出土土器Ⅰ（裏）



出土石器 2



出土石器 3



出土石器 4



出土石器 5



出土石器 6



出土石器 7



出土石器 1 石鏃、尖頭器



出土石器 2 石匙



出土石器3 莖状石器 (1)



出土石器4 莖状石器 (2)



出土石器5 莖状石器 (3)



出土石器6 莖状石器 (4)



出土石器7 莖状石器 (5) トランシェ



出土石器8 削器 (1)



出土石器9 削器 (2)



出土石器10 磨製石斧

(14) 富山2遺跡 (平成7年度登録・平成7年度県埋文センター緊急発掘調査実施)

所在地 山形県寒河江市大字富山

調査員 長橋 至

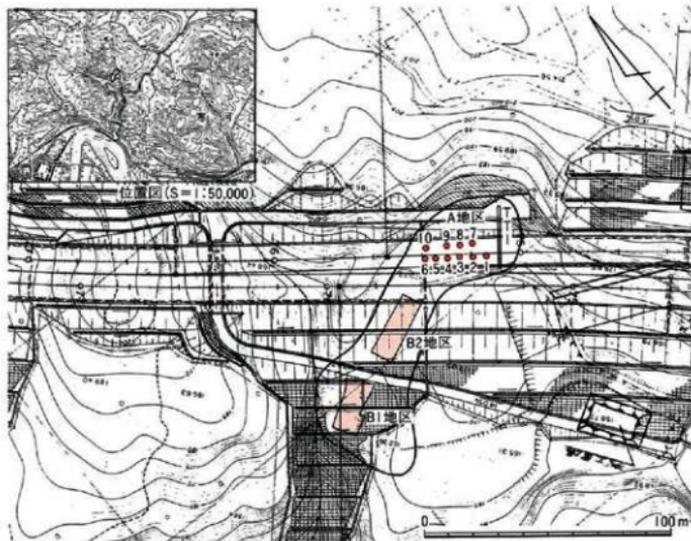
調査期日 B調査 平成7年6月13～15日 立会い調査 平成7年6月13～15・23日

起因事業 東北横断自動車道酒田線建設工事 (寒河江工事区)

遺跡環境 大江町左沢付近で大きく蛇行する最上川の左岸丘陵上に立地する。標高は162～179mを測る。現況は荒地 (道路予定地)。

試掘状況 遺跡は、平成7年6月に山形県埋蔵文化財センターの富山遺跡発掘調査中に、地元からの情報提供で新たに発見されたものである。連絡を受けた県教委では、直ちに現地調査をおこない、状況の把握に努めた。調査は6月13日から15日にB1区立会調査、A地区試掘調査、B2地区試掘調査、23日にB2地区拡張の順で実施した。

調査結果 A地区では、10箇所の試掘区、1本のトレンチを設定した。調査の結果、すべての試掘区から平安時代の土器が出土するとともに、TP5・7では遺構と見られる土色変化と焼土が検出された。この部分については、道路公団・埋文センターと協議の上、発掘調査を7年度に実施することとした。B1地区については、遺跡発見時に工事着工しており、緊急に立ち会い調査を実施した。大半が攪乱を受けていたが、調査区北側で3×2mで焼土と赤焼土器を含む深さ10cmほどの落ち込み遺構 (SX1)、深掘りトレンチで幅2m深さ30cm程の溝跡 (SD2) が検出された。B2地区は遺構等は希薄であった。



第51図 富山2遺跡概要図



第52図 富山2遺跡検出遺構平面・断面図



A地区TP2土層断面（南から）



B1地区調査状況（北から）



B1地区5×1土層断面（北から）



出土遺物

図版51 富山2遺跡

### Ⅲ まとめ

平成7年度の遺跡詳細分布調査は、平成8年度以降に予定されている開発事業に先行して、遺跡の所在・範囲等を明らかにして開発との調整を図ることを目的として実施した。また、記録保存のための小規模な発掘調査と立会い調査も行った。

調査遺跡は106遺跡を数え、他に遺跡の有無を確認するために数カ所の試掘調査も実施した。今年度新たに発見されて、登録した遺跡は14遺跡である。また、調査の結果、位置や範囲、遺跡名の訂正が必要となった遺跡は5遺跡、調査後の工事で遺跡の全部が破壊し抹消が必要となったものが3遺跡である。以下にその一覧を掲げて調査のまとめとする。

なお、本書の発行をもって、新規遺跡の登録、範囲等の訂正、遺跡の抹消手続きが周知されたものとみなす。

#### 1. 新規発見遺跡

(遺跡名)	(所在地)	(時代)
1 百野遺跡	酒田市大字保岡字百野	平安時代
2 蛙橋遺跡	酒田市大字保岡字蛙橋	平安時代
3 家隙遺跡	酒田市大字保岡字家隙	平安時代
4 地ノ本遺跡	鶴岡市大字面野山字地ノ本	平安時代
5 秋葉山橋跡	西村山郡朝日町大字大谷字秋葉山	中世
6 富山2遺跡	寒河江市大字谷沢字富山	平安時代
7 木ノ沢橋跡	寒河江市大字柴橋字木ノ沢	中世
8 悠然坊遺跡	天童市大字山口字悠然坊	平安時代
9 北柳1遺跡	山形市大字青柳字北柳	縄文・弥生・古墳時代
10 北柳2遺跡	山形市大字青柳字北柳	弥生時代
11 原遺跡	上市市大字小笹字原	縄文時代
12 長峯1遺跡	白鷹町大字鮎貝字長峯	縄文時代
13 長峯2遺跡	白鷹町大字鮎貝字長峯	縄文時代
14 西町田下遺跡	米沢市塩井町字西町田下	平安時代

#### 2. 位置・範囲・遺跡名の変更及び登録抹消する遺跡

(遺跡名)	(変更内容)	(変更を必要とする文献名)
1 檜下城跡	位置の訂正	昭和53年3月『山形県遺跡地図』
2 下河原遺跡	位置の訂正	平成2年3月『分布調査報告書(17)』
3 天王原遺跡	範囲の訂正	平成7年3月『分布調査報告書(22)』
4 露橋遺跡	名称の訂正 (旧露橋B館)	平成7年3月『分布調査報告書(22)』
5 糸群a遺跡	登録抹消	平成2年3月『米沢市遺跡地図』
6 大峯1遺跡	登録抹消	平成4年3月『分布調査報告書(19)』
7 大峯2遺跡	登録抹消	平成4年3月『分布調査報告書(19)』

表-3 掲載遺跡位置図(2万5千分の1)索引

No	遺 跡 名	図 幅 名	No	遺 跡 名	図 幅 名
1	小山崎遺跡	吹浦	52	糸群 a 遺跡	米沢
2	舟森遺跡	吹浦	53	箕輪館跡	吹浦
3	百野遺跡	酒田北部	54	太田遺跡	米沢
4	蛙橋遺跡	酒田北部	55	大浦 d 遺跡	米沢北部
5	家原遺跡	酒田北部	56	石コロ遺跡	山形南部
6	地ノ本遺跡	湯野浜	57	北柳 1 遺跡	山形北部
7	八幡田遺跡	湯野浜	58	北柳 2 遺跡	山形北部
8	柳久瀬 A 遺跡	羽黒山	59	下柳 A 遺跡	山形北部
9	五百刈遺跡	湯野浜	60	黒鳥山館跡	橋岡
10	鶴田野 3 遺跡	羽根沢温泉	61	安海壇遺跡	羽前小松
11	尼子岩除遺跡	赤湯	62	田制館跡	羽前小松
12	悠然坊遺跡	天童	63	松山城跡	余目
13	玉虫沼 B 遺跡	宮宿	64	山形西高敷地内遺跡	山形南部
14	煙硝蔵遺跡	上山	65	水上遺跡	向町
15	原遺跡	上山	66	山辺南条里跡	山形北部
16	台の上遺跡	上山	67	南台遺跡	長井
17	橋下城跡	上山	68	南沢山神沢遺跡	舟形
18	虚空蔵平遺跡	上山	69	下河原遺跡	尾花沢
19	上ノ原遺跡	上山	70	福田山 B 遺跡	舟形
20	唐古台遺跡	荒砥	71	中落合遺跡	赤湯
21	長峯 1 遺跡	荒砥	72	鶴ノ木館跡	赤湯
22	長峯 2 遺跡	荒砥	73	東畑 A 遺跡	赤湯
23	大林遺跡	羽前上郷	74	千野遺跡	小国東部
24	小峯遺跡	羽前上郷	75	大峯 2 遺跡	升田
25	名木沢橋跡	海谷	76	大峯 3 遺跡	升田
26	矢島遺跡	延沢	77	オサヤズ遺跡	山形南部
27	元木遺跡	延沢	78	六環遺跡	山形南部
28	黒木沢 A 遺跡	谷地	79	石田遺跡	山形南部
29	秋葉山橋跡	左沢	80	谷柏 J 遺跡	山形南部
30	鶯沢遺跡	左沢	81	萩原遺跡	山形南部
31	新溜空跡	余目	82	百日鬼遺跡	山形南部
32	西山遺跡	余目	83	樋渡遺跡	山形南部
33	大川端遺跡	小国	84	塚田遺跡	山形北部
34	西町田下遺跡	米沢北部	85	服部遺跡	山形北部
35	天王原遺跡	鶴岡	86	藤治屋敷遺跡	山形北部
36	橋待遺跡	吹浦	87	馬洗場 A 遺跡	山形北部
37	木戸下遺跡	吹浦	88	馬洗場 B 遺跡	山形北部
38	上高田遺跡	吹浦	89	向河原遺跡	山形北部
39	古屋敷遺跡	吹浦	90	渡江遺跡	山形北部
40	宮の前遺跡	富並	91	影沢北遺跡	山形北部
41	杉下遺跡	宮宿	92	中袋遺跡	寒河江
42	花川遺跡	山形南部	93	八反記田遺跡	寒河江
43	山元遺跡	天童	94	清池清水遺跡	寒河江
44	西原 C 遺跡	谷地	95	の場遺跡	寒河江
45	堂の前遺跡	橋岡	96	富山 2 遺跡	左沢
46	新屋敷遺跡	白鷹山	97	木ノ沢橋跡	左沢
47	植木場一遺跡	羽前小松	98	藤澤山遺跡	左沢
48	露橋遺跡	羽前小松	99	石倉館跡	本尊寺
49	向名高遺跡	古口	100	横軸橋跡	本尊寺
50	向田遺跡	羽後観音寺	101	上谷地 c 遺跡	米沢東部
51	生野原遺跡	荒砥			

地図名：国土地理院発行(2万5千分の1)

---

山形県埋蔵文化財調査報告書197集

分布調査報告書(23)

平成7年度以降農林・土木事業他関係遺跡  
東北横断自動車道酒田線・中央自動車道関係遺跡他  
国営農地開発事業島海南麓地区関係遺跡

平成8年3月25日 印刷

平成8年3月29日 発行

発行 山形県教育委員会

印刷 山形印刷株式会社

---